

先生方とともに
高校生の今と未来をつなぐ

〈ビュー21〉

高校版

2017
Volume 1

4

月

VIEW21

決意、新たに。

特集

答申から読み解く

次期学習指導要領

9つのキーワード

主体的・対話的で深い学びへ
実践 アクティブ・ラーニング

英語

愛知県・私立名古屋経済大学市邨中学校・高校 三原美樹

古典

山口県立大津緑洋高校 岩本隆行

指導変革の軌跡

静岡県立浜松西高校・中等部

島根県立出雲農林高校

楽しさも厳しさも、未来から生まれる

生徒 先生は、授業で自分の体験をたくさん話してくださいませ。外国人とのコミュニケーションギャップや海外でのハプニングなどの話はとても面白くて、授業内容とともにずっと心に残るんです。

先生 先生は英語を学ぶ過程で様々な人に出会い、素敵な体験をしてきたから、それをみんなに伝えることで、英語への興味や関心を高めてほしいと思っているんだよ。言葉は、人を幸せにするためにあるんだからね。

生徒 先生は私たちが英語を楽しめるように、すごく工夫してくださっていると感じます。授業の予習プリントも、授業の進度に合わせていろいろと改良が加えられていて……。見る度に「私たちが勉強しやすいように考えてくれているんだ」と実感します。

先生 授業の準備には本当に時間をかけているんだよ。だから、その努力がちゃんと伝わっていることが分かって、先生はとってもうれしいよ。涙が出そう（笑）。

生徒 生徒に英語を好きになってもらうことに情熱を注いでいる先生だと思います。先生が中心になってプログラムを作られた海外研修の日程表を見た時、外国の人と調整しながらこれだけのプログラムを組むのは

大変なことだと私にも分かりました。それだけに、研修はハードでしたが、「先生が私たちのために力を尽くしてくれたのだから」という思いで頑張れました。

先生 シンガポール大学での模擬国連などは本当にハードだったよね。でも、みんなも妥協することなく、しっかりと準備して臨んでくれました。大きな視野で生き方を考えるきっかけになったのなら、うれしいなあ。

生徒 うれしいことがあった時の先生は、周りが見えなくなったように大喜びしますよね。先生が僕ら以上に燃えていたクラスマッチで勝利した時も、先生は大喜びして、その姿を見た僕らも「うわー、先生、めっちゃ喜んでるやん」とうれしくなりました。

先生 授業やHRではいつも明るく、楽しい先生だけど、学年集会で進路のことを話す時は、人が変わったように厳しい先生になって、いつもあの迫力に圧倒されて、「今のままではダメだ」と心から思うんです。

先生 学年集会でみんなの前に立つと、いつも卒業式のことを考えてしまうんだよ。先生の夢は、「全員が第一志望に現役合格し、卒業すること」。そのために自分にできることは何でもします！

大目木俊憲先生 教職歴 31 年。同校に赴任して 6 年目。国際理解教育委員長。英語科主任。

兵庫県立川西緑台高校 全日制/普通科/共学/1 学年約 320 人/2016 年度入試合格実績 (現役のみ) 国公立大は、京都大、大阪大、神戸大などに 102 人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ 612 人が合格。

リニューアルの ご挨拶

いつも『VIEW21』高校版をお読みいただき、誠にありがとうございます。

表紙をご覧になってお気づきになったかもしれませんが、本誌は今号より誌面を大きくリニューアルいたしました。例年同様、新たな連載のコーナーがあるだけでなく、全ページをカラー化。それに伴い、前年度より継続するコーナーも含め、誌面のデザインを一新しております。

本誌が大きく変化する時——それはいつも、高校教育が大きな転換点を迎える時でした。

本誌の前身である『進研ニュース』が産声を上げたのは、今から43年前の1974年8月15日。当時は、共通一次試験案が衆目を集めていた大学入試制度の激動期でした。進学指導にあたる高校教師の支援を目的に、進研模試のデータを盛り込みながら大学入試情報を中心とした教育に関する情報を掲載する、4ページのタブロイド版でのスタートでした。

創刊から10年の83年には、大学入試情報をより豊富な内容で、かつ迅速・的確にお届けするために、B5判の情報誌にリニューアルしました。90年代に入ると、社会環境や生徒の気質の変化などにより、学校現場が「進学指導」から「進路指導」にシフト。それに伴い、『進研ニュース』も「大学入試情報中心」から「進路指導情報中心」へと編集方針を転換いたしました。

そして、1995年。社会を揺るがす出来事が数多く起こり、先の見えない不安に社会全体が包まれたその年の4月号より、『進研ニュース』から『進研ニュース VIEW21』へと名称を変更。文字通り、「21世紀を見つめ、ますます変化と混迷の予想される産業界及び高校・大学の現状と今後をたくましく生きていくためには、どのような進路指導が望まれるのか」を現場の先生とともに考えていく情報誌へと大きく様変わりいたしました。

それから約20年。社会は激しく変化し、ますます先の見通せない時代になってきています。教育もまた、大学入試を始めとして大きく変化しようとしています。そのような時代の転換点を迎えるにあたり、現場の先生方が目の前の生徒一人ひとりをどのように導いていけばよいのか、そして、これからの高校教育はどうあるべきなのか、答えが1つではないその問いを先生方とともに考え、解決のヒントとなる情報を提供していく——その決意を新たにすべく、今号より本誌はまた大きな変化を遂げます。

毎号熱心にお読みいただいている先生方には、これまで以上に有用な情報と厚く熱いメッセージをお届けするとともに、ご校務・ご指導でお忙しい先生方にとっても読みやすい誌面となるよう、デザインの面でも様々な工夫を施しています。

先生方とともに高校生の今と未来をつなぐ——そのコンセプトを実現する情報誌を目指し、編集部一同、これからも精進して参ります。

今後とも、『VIEW21』高校版を何とぞよろしくお願い申し上げます。

『VIEW21』高校版編集部一同

1974年創刊



1983年



創刊10年を機にタブロイドから冊子へ。

この年の4月号より、『進研ニュース VIEW21』と誌名も新たに大幅リニューアル。

1995年



1998年

「教師と生徒のコミュニケーション」をコンセプトにした表紙に変更。



2004年



B5判からA4判へとリニューアル。図版などを大きくし、資料性を高めた。

2017年

全ページをカラー化。高校教育が大きな転換点を迎える中、再び大幅リニューアルを図る。



3 特集

答申から読み解く

次期学習指導要領 9つのキーワード

4 まずは全体像をつかむ

すべての根底にあるのは、社会で活用できる資質・能力の育成

8 キーワードを押さえる

次期学習指導要領の理解を深めるための9つの視点

9 キーワード1 社会に開かれた教育課程

10 2 育成を目指す資質・能力

11 3 各教科等の特質に応じた見方・考え方

12 4 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)

13 5 目標に準拠した評価とその観点

14 6 カリキュラム・マネジメント

キーワード1~6 解説者 文部科学省 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長 大杉住子

15 7 地理総合/歴史総合 解説者 神戸大学附属中等教育学校 高木 優

16 8 理数探究 解説者 千葉県・私立渋谷教育学園幕張中学校・高校 岩田久造

17 9 総合的な探究の時間 解説者 京都府・京都市立堀川高校 校長 恩田 徹

18 自校のこれからの教育を考える

若手教師と校長が自校の教育課程のあり方を語り合う

茨城県立小瀬高校 ● 校長 石井純一 / 福地千文 / 宮本夏海

アドバイザー ● 横浜国立大学名誉教授 高木展郎

22 「探究学習」開発・推進 追跡レポート

育てたい生徒像を踏まえて
各教育活動を体系化・具体化

24 主体的・対話的で深い学びへ 実践 アクティブ・ラーニング

24 英語

愛知県・私立名古屋経済大学市邨中学校・高校 三原美樹
目の前の場面を見て、聞いて、本気で考え、
表現する過程で、自然と英語を使う力を育てる

28 古典

山口県立大津緑洋高校 岩本隆行
ALの意義の理解と学び合いの楽しさが、
古文の世界の情景を豊かに語らせる

32 指導変革の軌跡

32 静岡県立浜松西高校・中部部

中高接続の推進

教師が足並みをそろえ、
生徒の学力と進路意識を6年間で効果的に育成

36 島根県立出雲農林高校

魅力的な学校づくり

基礎学力、専門教育、進路指導の充実を図り、
地域を支える人材を育成

40 改良! 指導ツール ピフォーアフター

全学年 年度初期
年間目標達成シート

44 大学生による高校生のための 大学の学び 最新ナビ

44 筑波大学 生命環境学群 生物学類

理論と実験を結びつけ、

1年次から自分で考え行動する力を育む

46 岐阜聖徳学園大学 教育学部

1年次から、学校現場での実習で
教育の「今」を見て、感じて、学ぶ

48 VIEW'S REPORT

48 宮城県・仙台市立仙台工業高校の研究実践

資質・能力の育成につながる指導方法と評価手法を開発

52 千葉県の高校教師が連携して「学び直し」を推進

県内全域での「学び直し」の定着に向け、学校間の情報交換を促進

60 Reader's VIEW

巻末 教師を育てた言葉たち

「ピンポイントで解決しようとしてもダメ」

静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎

<http://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます
印刷製本/ (株) 協同プレス 編集協力/ (有) ベンダコ 執筆協力/ 中丸満、二宮良太、長
谷川教 撮影協力/ 川上一生、福山哲、ヤマグチイッキ

*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます

*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます

©Benesse Corporation 2017

今月の表紙メッセージ

決意、新たに。

◎新年度になりました。多くの人が新しいスタートを切るこの時期、先生方も新入生や新学年を迎え、気持ちを新たにされているのではないのでしょうか。教育動向においては、昨年末に中央教育審議会から答申が出され、次期学習指導要領の方向性が明確になりました。新しい教育課程の具体化に向けた動きを本格化させる決意をされた先生も多くいらっしゃると思います。そのスタートにあたり、ぜひ今号の特集をお役立ていただけますと幸いです。誌面を大幅リニューアルし、編集部も決意を新たに始動しました。今年度もよろしくお願いいたします。

『VIEW21』高校版
編集長 柏木 崇

答申から読み解く 次期学習指導要領 9つのキーワード

2016年12月、中央教育審議会から次期学習指導要領に関する答申が公表された。そこには、「新しい学習指導要領等の姿と、その理念の実現のために必要な方策等」が示されている。学習指導要領はどのような理念の下、どのように改訂されようとしているのか。今号では、答申及び関係者へのインタビューから、次期学習指導要領の全体像と高校教育にかかわる9つのキーワードを読み解いていく。

OVERHEAD VIEW

答申から次期学習指導要領を読み解き、生かすステップ

1 まずは全体像をつかむ 【P.4～7】



2 9つのキーワードを押さえる 【P.8～17】

- 1 社会に開かれた教育課程
- 2 育成を目指す資質・能力
- 3 各教科等の特質に応じた見方・考え方
- 4 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)
- 5 目標に準拠した評価とその観点
- 6 カリキュラム・マネジメント
- 7 地理総合/歴史総合
- 8 理数探究
- 9 総合的な探究の時間

解説最後の **読み解き** ポイント で各キーワードの要点を整理

3 次期学習指導要領の方向性を踏まえ **自校のこれからの教育を考える** 【P.18～21】

茨城県立小瀬^{おせ}高校の若手教師と校長による、有識者を交えた教育討論会

すべての根底にあるのは、 社会で活用できる資質・能力の育成

学習指導要領は、時代の変化や子どもたちの状況、社会の要請などを踏まえ、
おおよそ10年ごとに改訂されてきた。

2022年から学年進行で実施される高校の学習指導要領は、生徒に未来を切り拓く力を育むために、
どのような課題意識の下、どのような内容に改訂されるのだろうか。

そこで、まずは16年12月に中央教育審議会から公表された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校
及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に、
次期学習指導要領の全体像をつかむためのポイントを解説する。

監修／横浜国立大学 高木展郎名誉教授

改訂の意味

一人ひとりの子どもが 未来の創り手となるために

21世紀は知識基盤社会（*1）であり、人工知能の発達やIoT（*2）の実現などにより、社会構造は世界的に大きな転換期を迎えている。定型的な仕事は、今後ますます機械化・自動化が進むと予測されており、人には、問題を見いだして解決したり、新たな価値を生み出したりすることが一層求められるようになる。

そうした社会を生き、未来を切り拓いていく子どもたちに必要な力を育もうと、2007年、学校教育法の改正によって「学力の3要素」（*3）が定義され、学力観の転換が図られた。08年の学習指導要領改訂では、その3要素をバランスよく育むという観点で見直され、教科横断的に行う言語活動や「総合的な学習の時間」の充実を促し、資質・能力重視の教育課程への一歩を踏み出した。子どもの学力に目を向けると、PISAやTIMSS（*4）といった世界的な調査で日本は上位に位置し、文部科学省「全国学力・学習状況調査」では、選択式問題の正答率

が高く、学力の底上げが見られる。ただし、記述式問題では依然として無解答が多く、学んだ知識・技能を活用する力、自分の考えを表現し、伝える力には課題があると思われる。また、「自分の判断や行動がよい社会づくりにつながる」という意識が、国際的に見て相対的に低いことが明らかになっている。

次期学習指導要領が目指す姿

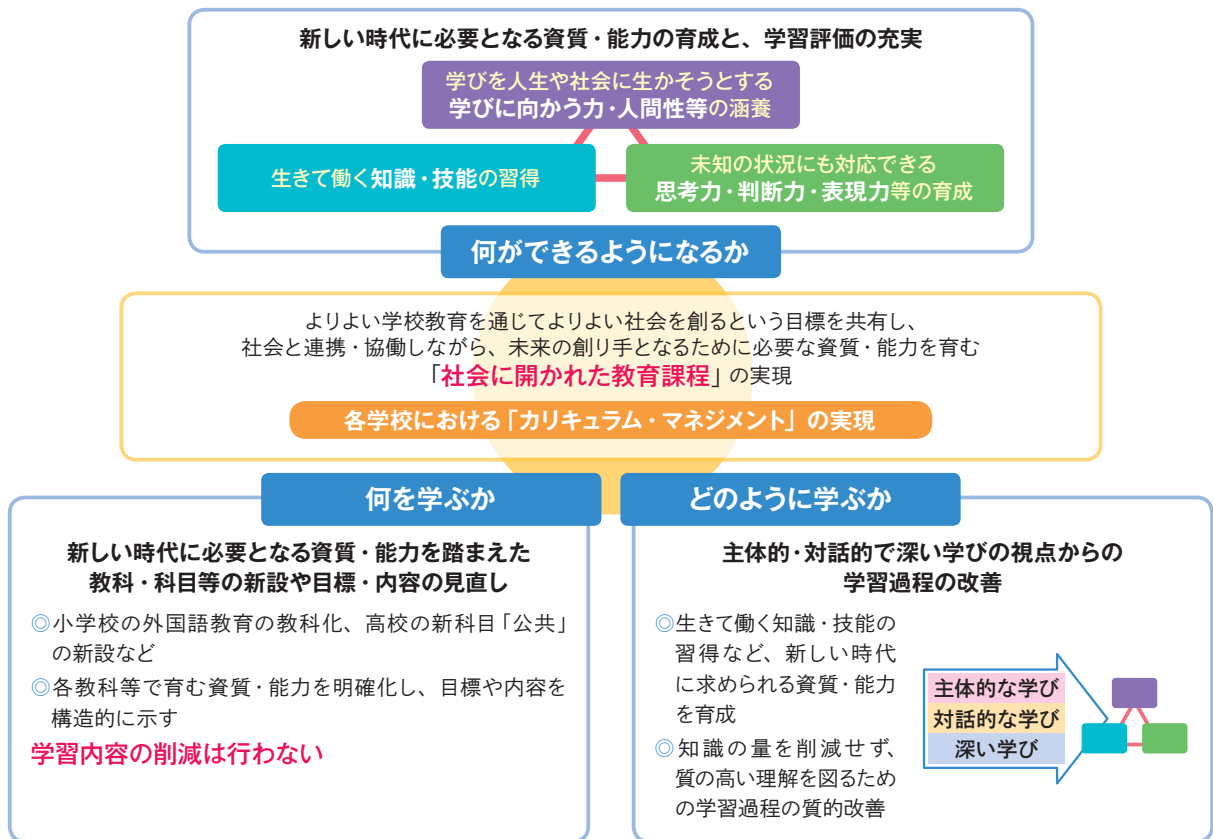
「社会に開かれた教育課程」 に資する指導要領への転換

そうした現状と課題を背景に議論が重ねられ、次期学習指導要領が目指す理念として「社会に開かれた教育課程」（解説P.9）が掲げられた。これは、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、両者が連携・協働して子どもたちに必要な資質・能力を育むことを意味している。そして、その実現に向けた枠組みを示すため、教育課程の基本事項を示す「総則」の位置づけを抜本的に見直し、次の①～⑥に沿った章立てに組み替え、教育課程編成に必要な事項を整理して示した（図1）。

①何ができるようになるか（育成を

*1 知識基盤社会の特質には、①知識には国境がなく、グローバル化が一層進む、②知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる、③知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる、④性別や年齢を問わず参画することが促進されることなどが挙げられる。
*2 Internet of Thingsの略。スマートフォンやパソコンだけでなく、様々な物に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりして、自動制御や情報収集などを行うこと。 *3 「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」。

図1 学習指導要領改訂の方向性



*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

- 目指す資質・能力 解説P.10)
- 何を学ぶか（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
 - どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
 - 子ども一人ひとりの発達をどのように支援するか（子どもの発達を踏まえた指導）
 - 何が身についたか（学習評価の充実）
 - 実施するために何が必要か（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

が共有し、相互に連携・協働して育む教育課程の編成が期待される。そして、子ども自身が、人生や社会のあり方と学びを結びつけて理解を深めることが重要であり、そうした質の高い学びを実現するために、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング、解説P.12）ができるよう、授業改善を図っていくことも求められている。

実現に向けた枠組み

自校の教育課程を6つの観点で見直して編成を

6つの観点を具体的に見ていく。

- 何ができるようになるか

これまで、育成を目指す資質・能力の例は様々に示されてきたが、次期学習指導要領では、「生きて働く『知識・技能』『未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』』『学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』』の3つの柱とした。これらは、「各教科等において育まれる資質・能力」「教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」

* 4 PISAは、経済協力開発機構（OECD）が行う生徒の学習到達度調査。TIMSSは、国際教育到達度評価学会（IEA）が行う国際数学・理科教育動向調査。

「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」にすべて共通する要素である。このうち、各教科等における資質・能力を育む鍵として「見方・考え方」(解説P.11)の重要性が示された。それは、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことで、各教科で鍛えられた「見方・考え方」を日常生活でも働かせることによって、様々な物事の理解と思考につながる。

②何を学ぶか

学習指導要領の各教科の教育目標や内容は、育成を目指す資質・能力の3つの柱を踏まえて再整理される。それにより、教科等間の横のつながりや、小中高の縦のつながりで学びを見通せるようになる。各学校では、それを手がかりに、自校で育成を目指す資質・能力を明確にし、教育課程を編成する。教科や学校段階を超えて相互の関係をつなぎ、学習成果を「何を知っているか」にとどまらず、「何ができるようになるか」にまで発展させて編成することが求められる。なお、学習内容の削減は行わない方針が示されている。

③どのように学ぶか

「どのように学ぶか」という学び

の質は、子どもの学習成果を左右するものであり、前述の通り、質の高い学びを実現するための授業改善の視点として示されたのが、「主体的・対話的で深い学び」だ。この3つの視点は、1回の授業ですべて実現させるものではなく、単元や題材のまとまりの中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を満たすよう、授業をデザインすることが求められる。また、高校では、中学校までの積み重ねを受けた「深い学び」となることが期待される。

④子ども一人ひとりの発達をどのように支援するか

資質・能力の育成には、子ども一人ひとりの興味・関心、発達や課題などを踏まえ、その個性に応じた学びを引き出し、個々の資質・能力を高めることが重要になる。そこで示されたのが、学校として学びを保証する「チームとしての学校」の視点だ。また、高校では、18年度から通級による指導(*5)が制度化される。指導を受ける生徒個々の状況に応じた指導や支援を組織的・継続的に行えるよう、「個別的教育支援計画」の作成が求められる。そうしたインクルーシブ教育システム(*6)の

考え方は、生徒一人ひとりの発達の支援を目指すにあたって、すべての生徒に必要なものである。

⑤何が身についたか

学習評価のあり方として、子どもが自らの学びに向かえるよう、教育課程や指導方法の改善と一体的に進める重要性が示された。また、学習評価の改善を、「カリキュラム・マネジメント」の中で教育課程や学習・指導方法の評価と結びつけ、学校全体のPDCAサイクルに位置づけることも必要だとしている。

評価の観点は、全学年、全教科等で、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点(解説P.13)で整理される。観点別評価に関して、高校では、知識量のみを問うペーパーテストや特定の活動の結果などだけに評価が偏重しているのではないかとの懸念が示された。Evaluation(評価)ではなく、Assessment(支援)として評価を行う意識を持つことが重要だ。

⑥実施するために何が必要か

教科等を超えた「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導改善などを行うため、学校全体の組織

力の強化が一層求められる。さらに、保護者や地域との協働、高大接続改革の継続も、子どもが学校の学びと社会とのつながりを見通し、よりよい社会づくりを意識した学びを積み重ねていくために重要である。

高校の教育課程の変更点

探究の一層の充実を目指した教科・科目構成と位置づけ

高校の教育課程はどうなるのか。卒業に必要な単位数は現状と同じ74単位で、社会で生きていくために必要な力を共通して身につける「共通性の確保」と、生徒一人ひとりの進路に応じた多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」を軸に、教科・科目の構成が見直される(図2)。必修科目目を中心に、主な変更点を挙げる。

①国語 実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目「現代の国語」と、日本の言語文化への理解を深める科目「言語文化」を、必修科目目として設定。

②地理・歴史 世界史必修を見直し、近現代の歴史を考察する「歴史総合」と、現代の地理的な諸問題を考察する「地理総合」(解説P.15)を必修科目目として設定。

* 5 障がいのある子どもが通常の学級に在籍しながら、必要に応じて別教室などで特別な支援を受ける制度。小・中学校では1993年から実施。
* 6 障がいのある者と障がいのない者が可能な限り、ともに学ぶ仕組みのこと。

図2 高校の各学科に共通する教科・科目等および標準単位数

改定案 *赤い下線は科目の構成に変更があるもの

教科	科目	標準単位数	必修修科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	○
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現	4	
	古典探究	4	
地理歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	○
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共	2	○
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○ 2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目または基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
地学	4		
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	
英語コミュニケーションⅡ		4	
英語コミュニケーションⅢ		4	
論理・表現Ⅰ		2	
論理・表現Ⅱ		2	
論理・表現Ⅲ		2	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
情報	情報Ⅰ	2	○
	情報Ⅱ	2	
理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2~5	
総合的な探究の時間		3~6	○ 2単位まで減可

現行

教科	科目	標準単位数	必修修科目
国語	国語総合	4	○ 2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	2	
	古典A	4	
	古典B	4	
地理歴史	世界史A	2	○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」または「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○ 2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目または基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
	理科課題研究	1	
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	コミュニケーション英語基礎	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	
英語表現Ⅰ		2	
英語表現Ⅱ		4	
英語会話	2		
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	○
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○ 2単位まで減可

*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

- ③公民 現代社会の課題を考察し、社会形成に参画する力を育成する「公共」を必修修科目として設定。
- ④外国語 英語4技能を総合的に扱う科目群として「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を設定し、「I」を共通必修修科目にする。
- ⑤理数探究 数学と理科の知識・技能を総合的に活用して探究的な学習を行う、新たな選択科目として「理数探究」（解説P.16）を設置。
- ⑥総合的な探究の時間 「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」（解説P.17）に改称。小・中学校の取り組みの成果を踏まえつつ、生涯にわたって探究する能力を育む総仕上げの科目と位置づける。
- 高校教育については、改めて「学び直しの充実」「学習評価の改善・充実」に言及している。社会での活用や大学での学びに接続させていくために、各学校が生徒の状況をしっかりと見取り、それぞれの希望進路に応じた資質・能力を確実に育む教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立が求められる。

次期学習指導要領の理解を深めるための9つの視点

答申から次期学習指導要領のキーワードとして押さえておきたい事項を

9つピックアップ。それらについて、文部科学省の大杉教育課程企画室長と、

中央教育審議会教育課程部会の委員を務めた教師が、

本誌の読者モニターからの疑問や質問への回答とともに解説する。

今回の答申から取り上げた9つのキーワードは、その意味やねらいを理解しておきたい、次期学習指導要領における重要事項だ。

「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」など、耳慣れない言葉があるかもしれないが、その内容を見ると、各学校が学校全体で教育の質を高められるよう打ち出された改善の視点であることが分かる。そして、育成が求められる資質・能力は、これまでの学校教育で育成してきた力とは異なる全く新しい力ということではない。6つのキーワードを解説している文

キーワードの解説者

キーワード

- 1 社会に開かれた教育課程
- 2 育成を目指す資質・能力
- 3 各教科等の特質に応じた見方・考え方の主体的・対話的で深い学び
- 4 テクニク・ラーニング
- 5 目標に準拠した評価とその観点
- 6 カリキュラム・マネジメント



大杉住子 おおすぎ すみこ
文部科学省において幼児教育、大学教育、キャリア教育など、教育行政を中心に担当。2014年から現職。

中央教育審議会教育課程部会

キーワード7 地理総合／歴史総合
高等学校の地理・公民科目の在り方に関する特別チーム委員



高木 優 たかぎ たかひろ
神戸大学附属中等教育学校
教職歴22年。同校に赴任して7年目。進路指導部長。担当教科は地理・公民（地理）。

キーワード8 理数探究
高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方に関する特別チーム委員



岩田久道 いわた ひさみち
千葉県・私立渋谷教育学園
幕張中学校・高校
教職歴32年。同校に赴任して7年目。担当教科は理科（化学）。

キーワード9 総合的な探究の時間
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ委員



恩田 徹 おんだ あつお
京都府・京都市立堀川高校
校長
教職歴31年。同校に赴任して3年目。

*プロフィールは2017年3月時点のものです

社会に開かれた教育課程

次期学習指導要領全体に
通底する基本となる理念

Q 「社会に開かれた教育課程」とはどういう意味でしょうか。

A 答申には、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」など、次期学習指導要領に向

図1 社会に開かれた教育課程とは

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

け重要となる事項が示されていますが、それらすべての基盤となる考え方が「社会に開かれた教育課程」です。「なぜ、資質・能力を育むのか」「なぜ、カリキュラム・マネジメントが必要なのか」、その理由のすべてが「社会に開かれた教育課程」の実現に帰着しています。

答申では、3つの側面から「社会に開かれた教育課程」について説明しています（図1）。①は、各学校が社会とのつながりを踏まえて学校教育目標を策定し、それを実現する教育課程とともに社会と共有するということです。②は、自校の生徒が社会で生きていくために必要な資質・能力を明らかにして育むということであり、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」につながります。③に示した社会の資源の活用は、「カリキュラム・マネジ

メント」の重要な側面に直結します。

学習指導要領の役割は、学校で教える内容とその体系を示すだけでなく、子どもが社会に出た時に必要となる力を、学校が育むにあたっての手がかりを示すことにもあります。そこで、次期学習指導要領では、総則の前に新たに「前文」を設け、「社会に開かれた教育課程」という改訂の方向性を共有することとしています。

Q 地域や企業と連携した活動は既に行っています。それをどう発展させれば、「社会に開かれた教育課程」となるのでしょうか。

A コミュニティ・スクールが全国的に広まり、学校と地域が教育目標を共有し、両者が連携しながら教育活動をつくり上げる仕組みは整ってきました。既に行われている個々の教育活動が、教育課程を軸に有機的に結びつけられるよう編成し

ていただきたいと考えています。

教育課程の編成主体は学校です。社会のニーズが先にありきで学校が受け身になるのではなく、生徒が将来活躍する時にはどのような社会になっいて、そこで生きていくために育むべき力は何かを考え、社会と自校のかかわりや教育課程の役割を明確化することがますます求められると思います。

読み解きポイント

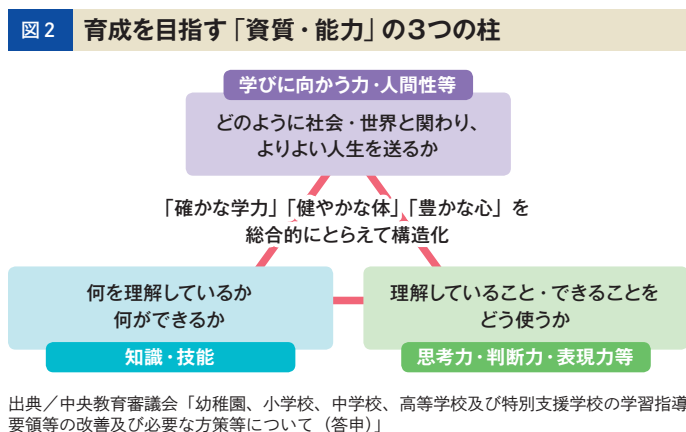
1. 「資質・能力」「見方・考え方」などに通底する、次期学習指導要領において実現を目指す基本的な理念
2. 社会と自校のかかわりを捉え、生徒や学校と社会とのつながりを考えた教育課程を編成する

育成を目指す資質・能力

教育課程全体で育みたい資質・能力が
3つの柱で構造的に示される

Q 次期学習指導要領では、育みたい「資質・能力」が大きく取り上げられています。どのような背景があるのでしょうか。

A 次期学習指導要領では、従来の学習内容（コンテンツ）だけでなく、それを学ぶことで「何ができる



出典／中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

ようになるか（「コンピテンシー」という視点で、学校教育で育みたい資質・能力を取り上げています。「コンテンツ・ベース」と「コンピテンシー・ベース」のどちらが重要かと対立的に捉える議論がなされがちですが、研究や実践が進む中で両者はともに育まれる関係にあることが明確になってきました。「資質・能力」と言うと、「思考力」や「主体性」「協働性」などはイメージしやすいと思いますが、次期学習指導要領では、「知識・技能」も大切な資質・能力の要素の1つと位置づけています。そして、「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と合わせて、育みたい資質・能力に共通する要素を大きく3つの柱に整理しました（図2）。

注目していただきたいのは、「知識」のあり方です。個別的・事実的な知識をただ記憶すればよいのではなく、「生きて働く知識」、すなわち、

習得した個別の知識を既存の知識と関連づけて深く理解し、ほかの学習や生活の場面で活用できるように確かなものに高める必要があると位置づけました。

Q どのような資質・能力を、どのように育めばよいでしょうか。

A 「資質・能力」の3つの柱は、各教科等だけでなく、教科等横断的な力（言語能力や情報活用能力などの学習の基盤となる力や、現代的な諸課題に対応する力）に共通する要素です。これらの力は、教科学習のみならず、「総合的な学習（探究）の時間」や特別活動などを含む教育課程全体で計画的・体系的に育んでいく必要があります。

その具体化に向けては、学校全体で育てたい資質・能力を目標として可視化し、各教科等のどの場面でのような資質・能力を育むのかを体系的に整理することが大切です。今行っている授業でも、「生徒が知識

を活用して思考する場面」「生徒が自らの学びを自覚し、振り返る場面」などがあると思います。そうした場面を生徒の学びの流れの中でどう生かすか、育成したい資質・能力を明確にし、単元や題材のまとまりの中での組み立てを考えることから始めてみるとよいでしょう。

次期学習指導要領では、各教科等において育みたい資質・能力が3つの柱で整理されます。指導計画を作る際の参考にしてください。

読み解きポイント

1. 育みたい資質・能力に共通する要素を、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の大きく3つの柱に整理した
2. 「知識・技能」は、様々な学習や生活の場面で活用できるものに高めることを目指す

図3 各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ (中学校、抜粋)

言葉による見方・考え方	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。
社会的事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりによって捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期、推移などに注目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
数学的な見方・考え方	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

出典/中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

キーワード
3

各教科等の特質に応じた見方・考え方

「深い学び」を促進し、
生活の中でも重要な働きをするもの

Q 現行教育課程でも「見方や考え方」が使われていますが、次期学習指導要領で改めて「見方・考え方」を取り上げた意図を教えてください。

A 子どもたちに必要な資質・能力を育てていくためには、各教科をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身につくのかという、教科を学ぶ本質的な意義を明らかにする必要があります。子どもたちは、各教科等の学びの中で、習得した知識を活用したり、身につけた思考力を発揮させたりしながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりします。その過程で、物事を捉える視点や考え方が鍛えられていきます。これが「見方・考え方」です。そこには教科の特質が表れます。例えば、国語では言葉による見方・考え方、美術では造形的な見方・考

え方です。このように、「見方・考え方」は資質・能力の育成に重要な役割を果たすことから、次期学習指導要領に向けて改めて議論し、具体的な内容を整理しました(図3)。

「見方・考え方」は、社会人になってからも重要な働きをします。例えば、企画を提案する際には、「数学的な見方・考え方」を働かせて物事をデータで捉えて分析をしたり、「言葉による見方・考え方」を使って言葉を吟味して説明したり、「造形的な見方・考え方」を使って構想を豊かに表す工夫をしたりします。だからこそ、すべての生徒が多様な教科を学ぶ意義があるのです。

Q 「見方・考え方」は、どう評価すればよいのでしょうか。

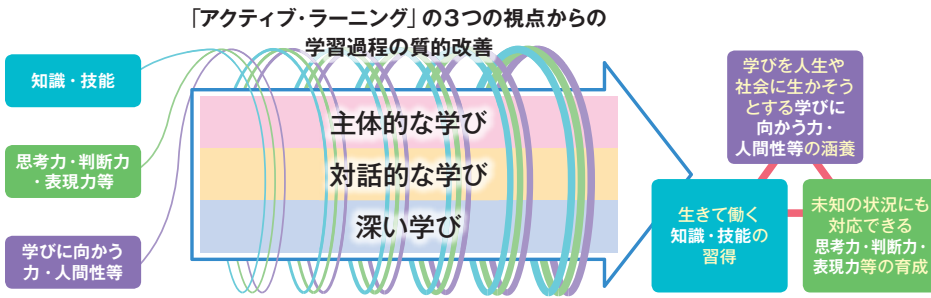
A 「資質・能力」は単元等でつきたい力として設定されるもので、観点別評価の対象(P.13参照)

となりますが、「見方・考え方」は評価の対象ではなく、生徒がそうした見方・考え方を働かせて思考するようになり、教師が意識して指導するものと捉えてください。生徒が「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定するかが大切です。そのように授業を工夫することが、キーワード4で触れる「深い学び」を促すこととなります。

読み解きポイント

1. 「資質・能力」を育むため、各教科を学ぶ本質的な意義が明らかにされ、「見方・考え方」はその中核をなす
2. 「見方・考え方」は、教科の特質に応じて異なるため、すべての生徒が多様な教科を学ぶ意義がある

図4 「資質・能力」の育成と「主体的・対話的で深い学び」の関係



出典／中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

キーワード
4

主体的・対話的で深い学び （アクティブ・ラーニング）

学習活動を通して「見方・考え方」を働かせる深い学びを目指す

Q アクティブ・ラーニング（以下、AL）の捉え方は教師によって様々です。次期学習指導要領で求められるALはどのような学びですか。

A 「AL」という言葉が多義的に捉えられる言葉でもあるため、中央教育審議会で議論を重ねていただき、「主体的・対話的で深い学び」と整理しました。具体的には次のような学びです。

「主体的な学び」は、生徒が学びに興味や関心を持って向かい、次の学びにつなげることです。生徒に学習の見通しを持たせ、振り返りをして身につけたことを自覚させることなどが挙げられます。「対話的な学び」は、他者の考えと交流させながら自身の考えを広げ、深める学びです。他者の考えには、友人や教師、地域のひととの対話だけでなく、読書を通じた筆者との対話や、歴史上の人物の考え方との交流などを通じても触れることができるでしょう。そ

して、「深い学び」は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学びです。知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする過程で、各教科等の「見方・考え方」を働かせるような学びを指します。

この3つの視点は、授業改善の視点としては個別のもですが、生徒の学びの過程では一体として実現され、相互に影響し合っています（図4）。ただ、1回の授業で3つの視点すべてを実現しなければならぬというわけではありません。単元や題材のまとまりの中で授業づくりをすることが大切です。

Q 3つの視点の学びの実現に向けて、授業をどう見直せばよいのでしょうか。

A 「主体的・対話的で深い学び」は、特定の指導方法のことではありません。

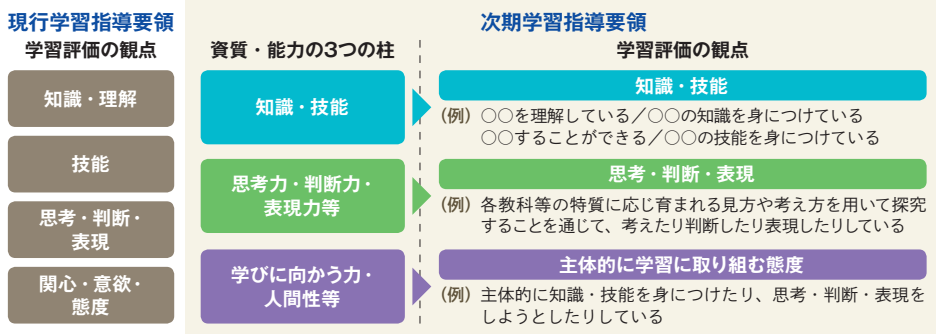
ません。これまでの授業実践の中から、生徒の学びを資質・能力の育成につなげるために重要となるポイントを整理したのが、3つの視点です。探究的な学習に限らず、教科学習の中でも実現される学びです。

自らの授業やほかの先生方の授業を3つの視点で見直すことが、授業を見る目を養うことになり、生徒の学ぶ姿から改善点を見いだし、指導の工夫を考え出すことにつながっていくと思います。

読み解きポイント

1. 「主体的・対話的で深い学び」は、授業改善のための視点であり、特定の指導方法のことではない
2. 単元や題材のまとまりの中で実現できるよう、これまでの実践の蓄積を生かしながら指導計画を立てる

図5 各教科等の学習評価の観点



*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

キーワード
5

目標に準拠した評価とその観点

資質・能力のバランスの取れた多面的な評価の工夫が必要

Q 学習評価の観点とは、どのような観点になりますか。

A 次期学習指導要領では、各教科等の教育目標や内容は「資質・能力」の3つの柱に基づいて再整理されて示されます。目標に準拠した評価の実現のため、学習評価の観点もこれに応じて「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つ（図5）に整理され、指導要録の様式も改善されます。なお、「学びに向かう力・人間性等」に含まれる感性や思いやりなどは、観点別学習状況の評価になじまないことから、評価の観点では「主体的に学習に取り組む態度」と設定し、幅広い人間性等にかかわることについては個人内評価を通じて見取っていくものとなりました。

各学校で評価を行う際に大切なのが単元等のまとまりを見通した計画

です。「資質・能力」は、単元や題材のまとまりの中で育まれていきます。それと同じように、評価の観点も毎回の授業ですべてを見取るのではなく、学習内容と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要です。

Q 3つの観点での評価は、どのように進めればよいでしょうか。

A 「資質・能力」をバランスよく評価するためには、知識量のみを問うペーパーテストの結果にとどまらない、多面的な評価の工夫が必要となります。論述や発表、話し合いなど、生徒が学んだことを活用して思考・判断・表現する場面を設けるとよいでしょう。特に「主体的に学習に取り組む態度」では、挙手の回数やノートの取り方など、形式的な活動で評価されることが懸念されています。単元や題材のまとまりの中で生徒が自ら学習の目標を持ち、

見通しと振り返りの機会を通して学習に対する自己調整を行おうとしているのを見取るなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善していくことが欠かせません。

国立教育政策研究所では、学習指導要領を手がかりにして教員が評価規準を設定し、子どもの学びを見取っていく際の参考資料を製作中です。そちらもぜひご覧ください。

読み解きポイント

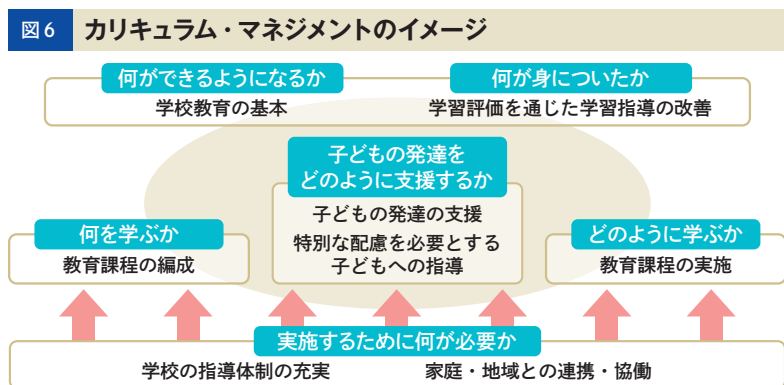
1. 学習評価の観点は、「資質・能力」の3つの柱に応じた「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理される
2. 生徒が学んだことを活用して思考・判断・表現する場面を設け、多面的に評価する

カリキュラム・マネジメント

教育課程を軸に、学校全体で
教育活動の改善サイクルを回す

Q 「カリキュラム・マネジメント」とは何か、いまだによく分かっていません。

A 新しい学習指導要領では、「カリキュラム・マネジメント」を、



*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

「生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」と定義することになっています。各学校で既に行われている教育や学校運営の活動が個別の改善にとどまっていなかったり、教育課程とのつながりで考えられているかを問い直していただくことが重要です。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けては、生徒が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」などの点を踏まえて各学校教育課程を編成し、生徒の実態を踏まえて見直しを図っていく

ことが求められます（図6）。また、その際、教科横断的な視点を持って考えることや、家庭や地域など外部の資源を取り入れていくことも重要となります。このような改善サイクルを回すためには、教科や学年を超えて、教職員全員で取り組んでいく必要があります。教科内、学年内にとどまらず学校全体で効果的に行うために「カリキュラム・マネジメント」が打ち出されたのです。

Q 「カリキュラム・マネジメント」には膨大な時間と力がかかりそうで、実施をためらってしまいます。

A 「カリキュラム・マネジメント」のすべてを一気に進めようとせず、課題を明確にして、できる取り組みから着手することが重要です。例えば、学校教育目標が各教科の授業に結びついていないという場合でも、そもそも学校教育目標が教師間で共有されていないのであれば、それを浸透させる方法を考えることが

読み解きポイント

1. 「カリキュラム・マネジメント」とは、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校全体で教育活動の改善を進めていくこと
2. 教育改善を個々の活動にとどめず、自校の教育課程とのつながりで考える

第一歩となります。学校教育目標が各教科等の目標とつながりにくい内容なのであれば、それをつなげるための中間的な目標を立てることが必要になるかもしれません。

生徒や地域の現状を把握した上で目標となっているか、目指す資質・能力は明確か、地域との連携は十分かなどの「カリキュラム・マネジメント」の視点を持ち、できることから、学校をよりよくする第一歩を踏み出していきたいと思います。

キーワード 7

地理総合／歴史総合

現代社会の課題を考察するための
知識・技能、視点を学ぶ科目

「地理総合」は、GIS（*1）・グローバル・ESD（*2）・防災の4分野を設け、地理的技能を身につけたり、諸課題を考察したりする。「歴史総合」は、現行課程の「世界史A」「日本史A」を融合し、近現代

図7 「地理総合」「歴史総合」の特徴

地理総合	持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目	グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する科目	地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目
歴史総合	世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目	歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目	歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

出典/中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

に焦点を当てた内容になる（図7）。

「現代的な諸課題の形成にかかわるといふ点から、『歴史総合』は現代の事象に絞られているのでしようが、2単位という点からもそれが適切だと思われます」（高木先生）

両科目とも学習内容に関心が集まるところだが、「次期学習指導要領では、『何を教えるか』だけではなく、『どのような力を育むか』がより明確に打ち出されます。教科書をどのように活用して『資質・能力』を育成していくかという視点を忘れてはならないと思えます」と、高木先生は指摘する。教科・科目・単元の各目標を踏まえた上で授業の主題を決め、いかに生徒の理解や思考を深める問いを設定できるかが、「資質・能力」の育成の鍵になるといふ。授業では、学習評価の3つの観点に応じた活動が必須になると、高木

先生は説明する。

「3観点にはいずれも主体的な活動を通して伸びる力が含まれており、どの観点を評価するとしても活動が盛り込む必要があります。ですから、技能を高めるのか、表現力を育成するのか、主体的に取り組む態度を養うのかなど、活動のねらいを明確にし、育成したい力を意識して問いや教材を工夫することが大切です」

例えば、「地理総合」では、一般図から情報を読み取るのが「技能」、思考・判断した概念を主題図で表すのが「表現力」、主題図を活用して社会に働きかけるのが「態度」にある。それを意識するだけでも、授業は大きく変わると、高木先生は語る。高木先生がもう1つ注意点として挙げたのが、「深い学び」だ。「『深い学び』は、『深い知識』だけを指すものではありません。『見方・考え

方』を鍛える深い学びを実現するためには、生徒が知りたい、考えたいと思ふ問いにすることが重要であり、用意された結論に導く議論では、生徒は考えるのを止め、教師の答えを待つようになってしまいます。現代的な課題は、答えが1つではありません。教師が生徒の多様な答えを受け入れる姿勢を持つことが、深い学びの実現には欠かせないでしょう」

読み解きポイント

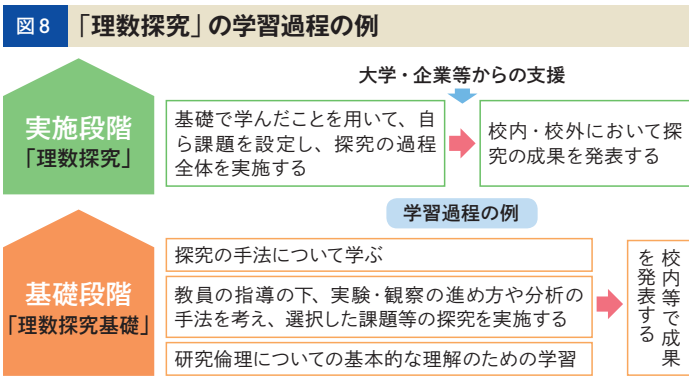
1. 「地理総合」はGIS、グローバル、ESD、防災の4分野、「歴史総合」は近現代に焦点を当てた内容
2. 現代的な課題は答えが1つではないこともあり、教師には生徒の多様な答えを受け入れる姿勢が求められる

*1 Geographic Information System の略。地理情報システムのこと。地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。 *2 Education for Sustainable Development の略。「持続可能な開発のための教育」と訳される。環境、貧困、人権、平和、開発などの様々な課題を、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことで、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと。そして、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。

理数探究

数学的・理科的な手法で 自然事象や社会事象を探究する

「理数探究」は、多角的・複合的な視点で事象を捉え、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を活用したり、組み合わせたりしながら探究的な学習を行うことで、新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培うことをねらいとした



* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

科目だ。生徒自ら探究の過程全体を遂行できるよう、2段階で構成される。「理数探究基礎」では、探究に必要な基礎事項を学び、主体的に探究に取り組み態度を身につけ、「理数探究」では、生徒が自ら課題を設定し、探究を進める(図8)。

本科目が設置された背景には、PISAで3分野(*)ともに高い成果が出た一方、児童生徒の算数・数学、理科を学ぶ楽しさや学習する意義への肯定感は諸外国に比べると低く、学校段階が上がるにつれて低下しているという課題がある。

「小学校では夏休みの自由研究などで多くの児童が探究的な学習を行っているようですが、高校では、既成事実の検証はしても、自分でデータを集め、解釈するといった活動はあまりされていません。学んだことを活用する場面があつてこそ、学びの興味を感じるものであり、『理数探究』は高校での探究的な学習を充実させ

るのが目的と言えます」(岩田先生)

SSH指定校では、数学・理科にわたる探究的な学習を行い、指導のノウハウが確立され、生徒の意欲や関心の向上も見られている。「理数探究」では、それらの成果を踏まえつつ、SSHのような支援がなくても実施できる基礎的な内容になるだろうと、岩田先生は説明する。

「曖昧さや不確かさがあつても、事実を基に自分の頭を働かせて答えを追い求める。それは、どの生徒にとつても社会に出てから必要となる力であり、すべての生徒に育みたい力です。また、『理数探究』と言うと自然科学的な課題に取り組むと思いがちですが、社会科学でも、経済人口、出生率など、数学的な見方・考え方が必要となるテーマはたくさんあり、どのような学校でも取り組める課題はあります」

本科目は、研究成果よりも、学習の過程を重視する科目である。その

読み解きポイント

1. 自然科学的なテーマだけでなく、社会科学的なテーマも探究の対象となる
2. 目的は、研究成果を出すことではなく、探究の過程を通じて、新たな価値創造に向けて粘り強く挑戦する力を養うこと

ため、思考の過程やそこにおける態度を評価することが必要で、「知識量のみを問うペーパーテストの結果だけで評価しないことが大切」と、岩田先生は強調する。

科目の具体的な内容は今後の決定となるが、「理数探究基礎」では、探究する上で必要な基礎事項を示した教科書が製作される予定だ。また、履修単位を「総合的な探究の時間」の単位に替えられるようにする方向で進んでいる。

* 数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力のこと。

キーワード 9

総合的な探究の時間

自分なりの問いを立て、その解決に向けて「探究」する力の育成を強化

「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）は、名称を「総合的な探究の時間」とし、より探究的な学習を重視する方向性が示された。

「多くの学校で行われている調べ

図9 総合的な探究の時間において育成を目指す資質・能力の整理（高校）

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ◎課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ◎課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ◎探究することの意義や価値の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◎探究することを通して身に付ける課題を見だし解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ◎主体的に探究することの経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。 ◎協同的（協働的）に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。 など

出典／中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

学習は大切ですが、調べた内容がそのまま課題の答えになるとは限りません。多様な意見や考え方を広く受け入れ、自分なりの問いを立てて解決に向かう力を伸ばす指導を行ってほしいというメッセージが、『探究』の言葉に込められていると思います」（恩田校長）

答申では、各教科等における「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせ、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら問い続ける重要性が示されている。小・中学校で行われている教科横断的な総合学習の取り組みの成果を生かし、高校の「総合的な探究の時間」では、生涯にわたって探究する能力を育むための総仕上げとしての位置づけが強調されている（図9）。

「進路行事を複数回行って『総合学習』とする高校もあるようですが、

進路選択に関する取り組みは特別活動に位置づけるべきものです。変化の激しい時代を生き抜くために必要な力を身につけさせる指導とは何か、各学校が考えていかなければなりません」（恩田校長）

「理数探究」とのすみ分けとして、教科横断的、かつ社会とのかかわりの中で探究を進めるため、文理融合を実感できる活動がよいと、恩田校長は指摘する。

答申では、本教科の目標や内容は、学校教育目標やミッションを体現するものとなるべきであり、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵となる教科に位置づけられている。

「従来の指導に加えて、探究的な学習を行うことは現場の大きな負担になりますから、本校では教科学習と探究的な学習にバランスよく取り組んでいます。教科学習の内容は精選

読み解きポイント

1. 各教科との学びを統合し、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、生涯にわたって探究する能力を育む
2. 学校教育目標を具現化し、教科横断的な探究的な学習とするために、カリキュラム・マネジメントの実現が必要

してはいますが、探究的な学習を通して学ぶ姿勢や学び方が身につくことで、生徒は自身の力で学びに向かうようになり、偏差値だけによる進路指導からの脱却が図れています。各学校では、学校教育目標を踏まえて探究的な学習の位置づけを議論し、身につけさせたい資質・能力を学校全体で育成できる教育課程を編成することが重要でしょう」（恩田校長）

若手教師と校長が

自校の教育課程のあり方を語り合う

次期学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の具現化には、教科や学年を超えて学校全体で取り組んでいく「カリキュラム・マネジメント」が重要になる。そのための第一歩となるのは、育てたい生徒像やその実現に向けた課題を、全教職員が共有し、理解することだろう。そこで、茨城県立小瀬高校の校長と若手教師が、中央教育審議会教育課程部会の委員を務める高木展郎横浜国立大学名誉教授をアドバイザーに迎え、討論会を実施。自校の取り組みと、そこから見えてきた課題や疑問について語り合った。

学校教育目標を教師間で共有し、学年の指導に反映

小瀬高校では、どのような学校教育目標を立てて教育課程を編成しているのかという話題から討論会はスタートした。
石井 本校は常陸大宮市の旧緒川村地域にある唯一の高校です。生徒は地元の中学校出身者が大半で、「地域の役に立ちたい」と語ります。卒業後は幅広い年齢の人たちと対話しながら生きていくことになりますから、そうした生徒たちに必要となる力は、異年齢間でのコミュニケーション

校長

茨城県立小瀬高校 校長

石井純一

いしい・じゅんいち

教職歴 30 年目。同校に赴任して1年目。茨城県教育委員会等を経て、現職。



教職歴1年目

茨城県立小瀬高校

宮本夏海

みやもと・なつみ

2016 年度、新規採用で同校に赴任。担当教科は国語。吹奏楽部顧問。



茨城県立小瀬高校

◎ 2003 年度から連携型中高一貫教育校となり、常陸大宮市立明峰中学校、同御前山中学校と、カリキュラムや行事などで連携・交流を深める。「特別進学」「教養」「福祉」の3コースを用意し、生徒の多様な進路希望を支援。

◎ 設立 1899 (明治 32) 年

◎ 形態 全日制／普通科／共学 ◎ 生徒数 1 学年約 80 人

◎ 2016 年度進路実績 (現役のみ) 国立大は、茨城大に 1 人が合格。私立大は、茨城キリスト教大、つくば国際大、常磐大に 4 人が合格。短大、専門学校進学 16 人。就職 43 人。

◎ URL <http://www.ose-h.ibk.ed.jp/>

*プロフィールは2017年3月時点のものです

ン能力だと捉え、各教科が教科の特性に応じて工夫し、指導しています。
福地 国語科では、教師間で話し合い、社会に出たら「伝え合う力」が重要になるという共通認識を持って、各学年の指導に反映させています。例えば、3年生の現代文の授業では、本校のPR動画を製作しました。実は、進路学習で本校のよさを書かせた際、生徒からほとんど言葉が出てこないということがありました。そこで、本校の魅力に気づかせたいという思いもあって、PR動画の製作を取り入れたのです。生徒は、動画の内容を検討していくうちに、12年連続で就職率が100%であること、7年連続で国公立大学合格者が出たことなどが他校にはない本校のよさなのだと分かり、客観的な視点を持つようになることができました。そして、創り手を経験することで、表現力が身につくとともに、評論や小説の読解で書き手の考えや思いを読み取る意識が高まってきました。

石井 完成作品はどれも本校の魅力が伝わる力作で、生徒の愛校心が高まる機会にもなっていました。就職や入試の面接で、本校の特色や地域のよさを自分の言葉で語れるようになり、地域に誇りを持てるようになったのも、大きな成果でした。

生徒の課題を基に、いかに資質・能力を育むかを考える

宮本 外部研修などで聞いた他校の様子と比較すると、伝えるためには相手の考えをしっかりと聞くことが重要だと捉えて、「聞く力」の育成にも力を入れているのは、本校の特色



教職歴5年目
 茨城県立小瀬高校
福地千文
 ふくち・ちふみ
 教職歴5年目。同校に赴任して5年目。担当教科は国語。3学年担任。

だと感じています。

福地 進路集会などで講師の話聞く際に、生徒にメモ帳を配布し、要点を書き取るように指導していましたが、大事なポイントがつかめず、メモが取れないということが分かりました。そこで、聞き取りの指導を行い、国語の定期考査でリスニングテストも課しています。テストでは、案内文や説明文を聞かせて、日時や要点を答える問題を出しています。

石井 今では校外学習先でも褒めら



アドバイザー
 横浜国立大学
 名誉教授
高木展郎
 たかぎ・のぶお

高木名誉教授プロフィール
 兵庫教育大学大学院学校教育研究科言語系修了。専門は教育方法学、国語科教育学。東京都公立中学校教諭、神奈川県立高校教諭、筑波大学附属駒場中学・高校教諭、福井大学、静岡大学を経て、2016年3月まで横浜国立大学。近著に『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは』（東洋館出版社）、『「チーム学校」を創る』（共著）、『変わる学力、変える授業。—21世紀を生き抜く力とは—』（ともに三省堂）。

れるほど、生徒に聞く姿勢が身につきました。先生方が、目の前にいる生徒の課題を起点に指導を考え、具現化しているのが、本校の強みです。

高木 それこそ、次期学習指導要領で実施が求められている「カリキュラム・マネジメント」の基本と言えるでしょう。目標を一度決めると、その目標を達成することに縛られがちですが、小瀬高校では生徒の課題から学力として身につけるべき資質・能力を見いだし、指導して、柔軟にPDCAサイクルを回している様子が見えます。

石井 今後は、知識の習得に加え、生徒が主体的に学ぶ場面をバランスよく取り入れていくことを、特に若手教師に考えてほしいと思っています。

高木 そのために必要なのが、単元計画です。生徒は自然に資質・能力を身につけるのではなく、教師の指導によって身につけていきます。何を教えて、どう考えさせるのかを、意図的に組み立てる必要がありますし、単元計画があることで学校としての教育の質が保証されます。

宮本 私が指導で悩んでいるのは、評価についてです。授業で身につけてほしい力を生徒に意識させることに注力しすぎて、振り返りが十分にできていませんでした。生徒に学びの自己評価をさせていますが、その規準を明確に示せていません。

高木 振り返りは、自分ができていないことでないことを認識させ、次の行動につなげる意味があります。そのためにも単元計画は有効です。例えば、生徒に単元計画を渡し、1時間の授業の流れを黒板に書いておけば、目標と今の学習の内容



「地域を支える人材を育てる学校が地域を築く」という
思いを教育課程で具現化する

石井



授業での学びを日常的に
使えるよう、部活動でも伝え合う
場面を意識して取り入れる

宮本

が分かり、自分がどこまで到達しているかを認識できるでしょう。

学んだことを活用できる場を 日常的に組み込む

石井 教科学習以外では、中高連携でも「伝え合う力」の育成に力を入れていきます。本校は連携型中高一貫教育校として、近隣の2つの中学校と授業や行事などで連携し、生徒・教師ともに交流を深めています。特色ある活動は「ふれあいキャンパス」(下記参照)です。中学1年生〜高校3年生がともに学ぶ中で、高校生は後輩を引っ張り、中学生は先輩の

頼もしい姿に触れ、双方に様々な学びが生まれています。この活動をさらに深い学びの場にしようと、次年度の「ふれあいキャンパス」の内容を中高の生徒が自ら議論する「ふれあいキャンパスディスカッション」を開きました。高校3年生を中心に進めましたが、高校1年次から異年齢と接する中で「伝え合う力」を育成してきた成果が見られ、生徒は中学生を盛り立てながら、活発に議論を進めていました。

福地 日常的に話す場

を設けていたのがよかったです。例えば、清掃後に、その日の一番印象的な出来事を話す活動をしています。校長が時々飛び入り参加しますよね。とつさの時にも敬語で話せるようになる

小瀬高校の取り組み

■ふれあいキャンパス

連携先の明峰中学校と御前山中学校、小瀬高校の3校の全校生徒が一緒に学ぶ1日講座。5回目となる2016年度は9月に実施。「振り子の世界」「人工イクラを作ろう」「英語を使って弓道を楽しもう」など、9教科16講座を開講。3校の教師が合同で指導にあたり、高校生も上級生として後輩を支援した。

■ふれあいキャンパスディスカッション

2017年2月、「2017年度の『ふれあいキャンパス』をより魅力的にするために自分たちができることは何か」をテーマに、中学1〜2年生と高校1〜3年生の計297人がグループに分かれてディスカッションをした。



今こそ考えたい、 なぜ中高連携は必要なのか？

など、対応力がつきました。
宮本 私が顧問を務める吹奏楽部では、地域の福祉施設などで演奏会を開く際、観客がもっと楽しめるようにと、生徒にレクリエーションを考えさせ、司会も任せています。生徒たちは回を重ねていくうちに上手に進行できるようになり、今はその場に応じて話せるようになりました。
高木 生徒が授業で学んだことを活用できる場面が、学校全体の教育活動にうまく組み込まれていますね。

宮本 実は、「ふれあいキャンパスディスカッション」の準備で中学校の先生方と話す中で、中高の指導観

の違いを感じ、改めて中高連携の意味について考えています。

高木 子どもは学校段階に関係なく連続して成長していきますが、学びが学校段階間で途切れてしまっているのが問題です。例えば、「伝え合う力」は、学校段階や教科の枠を超えて育成できますから、小・中学校から「聞く」「話す」の指導を受けてきたら、高校ではその学びに積み上げた指導ができ、生徒の「伝え合う力」をさらに伸ばすことができず。そのような「接続」をするために、中高が協働し、学校段階間がつながるカリキュラムが必要なのです。

地域における自校の役割を 考えて、教育課程をつくる

ン」終了後、中学校の校長から「自校の卒業生が堂々と話す姿に感動した」と感謝されました。生徒が活躍する姿を直接見てもらうことで、本校の活動の意義を理解し、協働が進むようにしたいと考えています。

宮本 私は16年度に本校に赴任し、本校の教育の根底に流れる「地域のために」という思いは、先生方が築き上げた伝統なのだと感じました。一方で、中心となる先生方が異動されたら、その思いが消えてしまうのではないかとといった不安も感じています。

石井 本校の目指す学校像に「基礎学力の定着」「社会規範の涵養」「地域に貢献できる人材の育成」などを掲げていますが、「何のために行っ



生徒の課題から必要な資質・能力の育成を考えることが、カリキュラム・マネジメントの基本

高木

ているのか」という目的は明文化されていません。それをしっかりと明確化し、学校全体で共有する必要があります。一方で、地域の力を活用することも考えています。地域のから「小瀬高校はこういう学校だ」と言われ、地域の中で本校の役割が明確になれば、異動してきた先生も地域が本校に求める教育をしなればと思うようになるはず。そうした地域の目があれば、本校の教育の根本は受け継がれると思います。

高木 地方の多くの高校が抱える問題に正面から取り組んでいるのが、小瀬高校だと思います。「地域が衰退していく」と嘆くのではなく、生徒が生きていく地域にはどのような教育が必要とされているのかを考えて教育課程を編成し、「学校が地域を築いていこう」としているからです。



全校で目標を共有しているから、生徒の課題に応じた指導を柔軟に取り入れられる

福地

石井 全県一区となり学校の地域性が薄れつつありますが、だからこそ地域の子どもは地域で育てることの意義をいま一度、中学校・高校とも考える必要があると思います。「ふれあいキャンパスディスプレイ」

育てたい生徒像を踏まえて

各教育活動を体系化・具体化

探究学習及びアクティブ・ラーニング（以下、AL）の開発とともに、教育活動全般の改善に取り組む龍谷大学付属平安中学校・高校。今回は各教育活動の検討と改善の様子をレポートする。

1月●カリキュラム案の作成・検討

検討の進め方を共有し、 担当グループ別作業へ

2016年秋から校内のカリキュラム・マネジメント委員会にて探究学習・ALの検討を続ける龍谷大学付属平安中学校・高校。学年や教科分掌を超え、半年間にわたって、探究学習・ALの意義や目的を校内で語り合ってきた。1月に行われた話し合いでは、それまでに議論された「育てたい生徒像と各教育活動の関係」（図2参照）と各教育活動の現状とねらいを踏まえて、それぞれの活動の改善内容を具体的に検討。その際、「取り組み検討シート」（図1参照）を使い、まず、委員会のメンバー全員で活動の目的・目標（3年間で育

図1 取り組み検討シート

AL・探究学習取り組み検討シート	
活動分類	
教育活動名	
実施時期	
教育目標	大目標 〔育てたい生徒像〕 「ことば・じかん・いのち」の三つの大切を軸として 「自らを深く見つめることのできる自らを養うこと」 「内面から湧きあがるような学びへの意欲を育むこと」 「あらゆる存在により支えられていく関係のいのちの輝きに気づくこと」 「ができる人間に成長することを目指す。」
	中目標 〔各学年で育む力〕 〔各教科教育活動で育む力に該当するものに該当する〕 高1: 問題発見力 (自分の興味・関心がある社会課題を見つけ) 高2: 課題設定力 (自分の興味・関心がある社会課題に対して取り組みたい取り組みべきことを定める) 高3: 課題・問題解決力 (課題に取り組み/取り組みを解決したりする上で必要なスキルを身につける)
	小目標 〔各教科教育活動の目的/目標〕 〔教育目標〕 〔教養目標〕 〔知識目標〕
従前の内容	
小目標を達成する上での課題と打ち手	
改善後の内容	活動内容 概要
	学びのPDCA (生徒のPDCA)
	指導のPDCA (教師のPDCA)

各教育活動の目的となる3年間で育てたい生徒像、各学年で育むべき力を常に確認しながら、これまでの取り組みにおける課題と改善策を整理し、指導や学びのPDCAサイクルを考えた。

てたい生徒像↓各学年で育む力↓当該活動で育む力と整理していくや、探究学習・ALの観点での「PDCA」（課題の設定から振り返りといった一連の流れ）サイクルにより各活動を

構成することを共有していった。その上で、各活動を担当する教師が自身のグループに持ち帰り、「取り組み検討シート」を基に、それぞれのカリキュラム案の作成を開始した。

これまで取り組んだ内容

12月

学習のコンセプトの
具体化

（どの行事でどのような探究学習・ALを行うのか）

各行事の内容、ねらいをグループで確認し、それぞれの行事が今後どのように発展すべきかを考えました。

11月

学習の
コンセプトの作成

育みたい力と、その実現のための教育活動に関するキーワードを出し合い、コンセプトづくりにつなげました。

10月

学習の意義・
目的の明確化

「育てたい生徒像」を小グループで話し合うことで、探究学習・ALの土台作りを行いました。

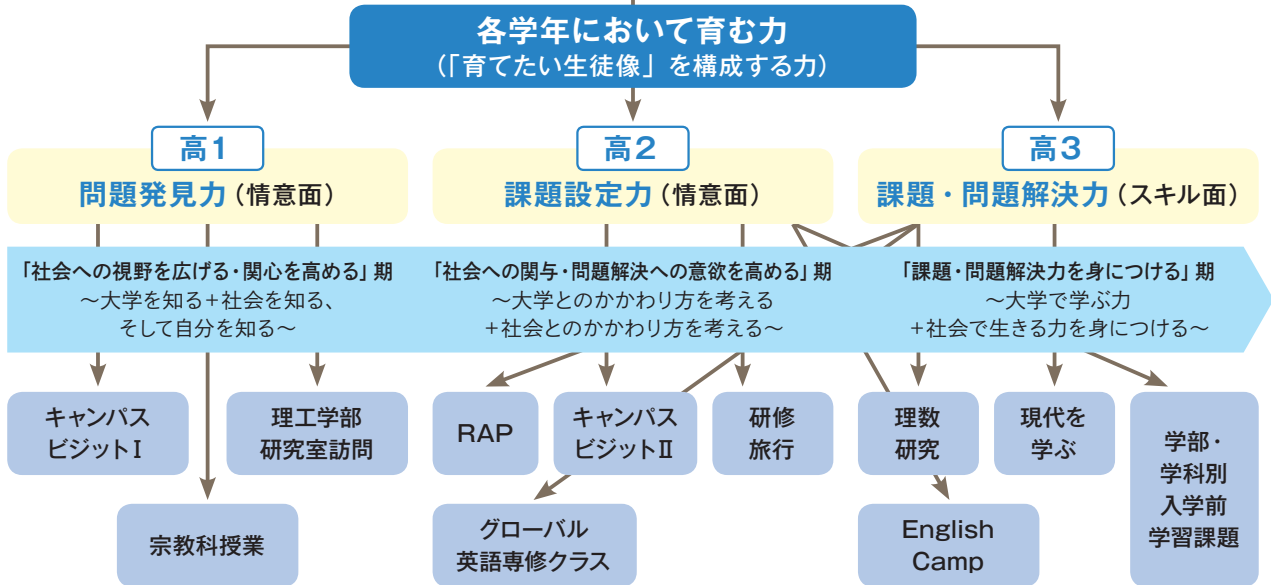
探究学習・

AL開発のフロー

校内での検討を次のような流れで進める同校。議論の活性化のためにどのような配慮がなされているのかを、サポータースタッフとして参加するベネッセ高校営業部・若菜寿美が解説する。

3年間を通じて「育てたい生徒像」

「ことば・じかん・いのち」この三つの大切を糸口として
 「自らを深く見つめることのできる目を養うこと」
 「内面から湧きあがるような学びへの意欲を育むこと」
 「あらゆる存在により支えられている私のいのちの尊厳に気づくこと」
 ができる人間に成ることをめざします。



3年間の教育活動を「育てたい生徒像」を踏まえて議論する。その過程で、参加した教師の口からは、「学校全体」「教育活動総体」といった言葉が何度も発せられた。

2月●実施のためのtopoの整理
 次年度の教育活動の方針を
 全体ですり合わせる

各教育活動について、担当する教師が「育てたい生徒像」を踏まえて、取り組み内容を吟味した結果が、4月以降の方針として発表された。

参加した教師からは、「我々教師が生徒に向き合う時は、すべての教育活動を体系的に捉えておくことが大切なのだ」と改めて実感した。「外部との連携で進める教育活動では、評価の客観性が課題であるなど、引き続き検討すべき事項が明らかになった」などの声が上がった。

今後の予定

「探究学習・ALを通して育てたい生徒像と各教育活動の関係」と、各教育活動の「取り組み検討シート」の内容が4月の校内会議で発表され、すべての先生方に周知・共有される予定です。それにより、探究学習・ALを軸にした教育が全校体制で動き始めます。

今回取り組んだ内容

1月

各教育活動の
カリキュラム案の
作成・検討

探究学習・ALの全体像についての意見交換を行った上で、各教育活動について、「取り組み検討シート」を使って具体化していくことを全体で確認しました。その後、教育活動の1つを例に、取り組み検討シートを使った具体化の作業を実際に体験しました。

2月

探究学習・ALの
カリキュラム決定と
その実施のための
topoの整理

探究学習・AL化する各教育活動のご担当の先生を中心に、各グループで教育活動の具体化の検討を行い、2月のミーティングで発表していただきました。具体化された教育活動を俯瞰的に眺めながら、改めて「探究学習・ALを通じて育む生徒像」を踏まえて、全体で意見交換を行いました。

8:45 授業開始



授業は原則、オール・イングリッシュ。まず、冬休みの思い出を伝え合うペアワークを行い、先生に指名された生徒数人が、自分のパートナーが話した思い出を発表した。そのねらいは、相手の話に注意深く耳を傾け、理解した内容を要約し、主語や代名詞を適切に変えて説明することを通じて、状況をしっかり捉えて英語で話す力を育成することにある。

授業
ハイライト

●2年生「コミュニケーション英語」の授業。過去分詞を用いた後置修飾や関係詞の用法を身につけながら、キング牧師の演説内容を読む。平和や差別についての考えを深めていき、ペアワークなどで自らの考えを発信。(P.27に授業デザインを掲載)

主体的・対話的で
深い学びへ

実践
アクティブ・ラーニング

英語

目の前の場面を見て、聞いて、
本気で考え、表現する過程で、
自然と英語を使う力を育てる

生徒が思考をフル回転させる
「大変だけれど楽しい」授業

三原先生のアクティブ・ラーニング

名古屋経済大学市邨中学校・高校には、中学校時代に英語に苦手意識を持っていた生徒が比較的多い。三原美樹先生は生徒に英語を好きになってほしいと考えて指導法を模索し、2014年にGDM (Graded Direct Method / 段階的直接法) に出合った。以降、愛知文教



愛知県・私立
名古屋経済大学市邨中学校・高校
三原美樹 みはら・みき

教職歴11年。
同校に赴任して10年目。
アクティブ・ラーニングの実践は3年目になる。

名古屋経済大学市邨中学校・高校

◎名古屋女子商業学校として開校。2002年に現校名に改称し、男女共学化、全コース普通科となる。建学の精神「一に人物、二に伎倆」を掲げ、全人教育を推進。特進、文理、キャリアデザインの3コースを設置し、生徒の多様な進路に対応。

◎設立 1907(明治40)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約350人

◎2016年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、信州大、大阪教育大、愛知県立大、名桜大に4人が合格。私立大は、津田塾大、法政大、明治大、立教大、関西大などに延べ271人が合格。

◎URL

<http://www.ichimura.ed.jp/high/>

*プロフィールは2017年3月時点のものです

9:03 関係詞の学習



生徒同士で“Which country do you want to live?”と問いかけ、自分の考えを述べ合うペアワークを実施。先生が関係詞“where”を使った例文を示すと、生徒は、“Sweden is a country where there are many beautiful places. So I want to live in Sweden.”などと、関係詞を用いて自分が住みたい国について説明し合った。

8:53 後置修飾の学習



先生が富士山を訪れた話をした上で、富士山の写真3枚を掲示。ペアワークで“Which picture of Mt.Fuji do you like the best?”“I like the picture of Mt.Fuji taken in the morning the best.”といった応答を繰り返し、分詞“taken”による後置修飾の用法を理解させる。次に、富士山に関する名言を紹介し、同様に“spoken”を用いた後置修飾の用法の定着を図った。

大学の松浦克己講師の指導の下、校内の教師とともに研究と実践を進めている。

GDMの特徴の1つは、英語が自然と身につくように、教材や教え方が段階を追っていること(Graded)だ。15年度は、1年生を対象にGDMの段階的なカリキュラムを土台として、中学校英語の内容を総復習した。授業は原則、英語で進める。文法用語を使った日本語による説明はせず、直接英語のまま(Direct)理解させていく。三原先生は生徒の様子をこう語る。

「GDMでは、教えられたことを覚えるのではなく、英語をしっかりと聞き、自分で使う中で、理解しようと努める必要があります。授業中は思考をフル回転させなくてはならず、当初は生徒から『大変だ』『疲れる』といった声が聞かれました。それでも1年間続けると、英語で話せるようになり、『自分が話せるようになるなんて』といった喜びの声に変わっていききました」

思考の活性化・深化への配慮

文法事項は説明せず、英語を 実際に聞いて使う中で理解させる

この日の授業も、GDMの教授法に沿って進められた。教科書本文のキング牧師の演説内容を読んで考えを深めるためには、後置修飾や関係詞“where”を理解する必要があった。三原先生は、文法事項については一切説明せず、実際に英語を使うことを通して理解させていった。

後置修飾に関しては、先生が冬休みに訪れた富士山に関連させて、異なる時間帯に撮影された3枚の富士山の写真を示し、それらについて、生徒に“‘That picture was taken in the morning.’や‘That picture was taken at night.’などと発言させた。そして、‘Which picture of Mt.Fuji do you like the best?’と質問。夕焼けの富士山の写真が気に入った生徒は、‘I like the picture taken in the evening the best.’と、分詞“taken”を適切に使って答える必要があり、最初は正しく答えられなくても、試行錯誤して発言する中で正しい使い方を理解していった。

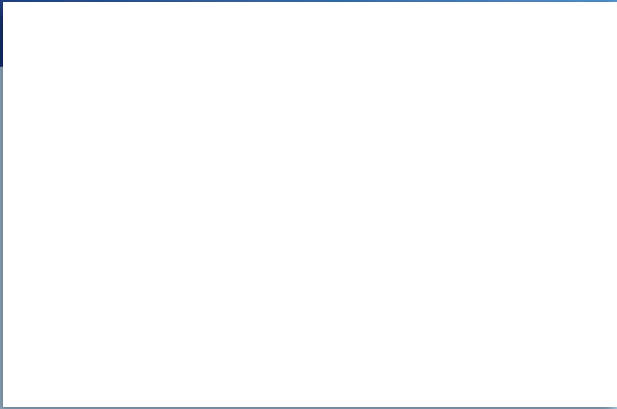
「おそらく生徒の頭の中には、‘taken’だけでなく‘took’‘taking’‘to take’なども出てきて、どう表現すればよいかと考えます。自分で選んで使った相手の反応を見たり、教師やほかの生徒の発話を聞いたりする中で、生徒自身がルールや意味をつかめるようにすることが、GDMの肝です。一人ひとりの頭の中で、アクティブ・ラーニングが確実に起きています」と

その後、関係詞“where”の使い方も、生徒は“Which country do you want to live?”という問いへの考えを伝え合う活動を通して、実際に聞いたり使ったりして理解を深めていった。

生徒の関心に沿った副教材を用いて 生徒の心を動かし、思考につなげる

そのようにして文法事項を習得しながら、キング牧師の演説内容を読み込んでいくが、単元

9:27 自分の考えを表現



プリントの“*What kind of world do you want to live?*”という問いに対して、各自が関係詞“*where*”を用いて自分の考えを記述。表現方法や単語について、生徒たちが相談し合う姿も見られた。その後、指名された数人の生徒が“*I want to live in a world where everyone can have enough food.*”などと発表した。

9:16 リスニングと音読



教科書の本文のリスニングとペアでの音読をした後、キング牧師が行った演説の実際の映像とテキストをスクリーンに映し出して改めて音読。新出の表現や単語も、ペアで確認した。



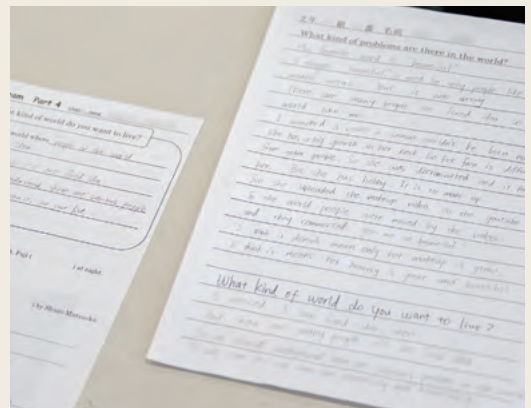
動画や音楽などを見たり聞いたりしながら話すので、アウトプットとインプットを同時に行う練習になっています。瞬間的に英語が出てくる力もついてきました。

を通して、教科書以外にも平和や差別などを扱った様々な教材に触れ、ペアワークなどを通して、自分の考えを深めてきた。単元の集大成となる今回の授業では、キング牧師が行った演説の実際の動画を見た上で、世界平和をテーマとしたジョン・レノンの曲「*Imagine*」を歌うレディー・ガガの動画も視聴した。三原先生は、これを単元の目標達成に重要な活動と位置づけており、生徒の様子を次のように話す。

「キング牧師の演説と『*Imagine*』の歌詞それぞれの英文を頭の中で比べながら聞いて、表現は違っても願いやメッセージは同じであることを、日本語に訳すことなく理解し、感じ取っていました。そして、彼らの人々に訴える様子を実際に見て、その切実なメッセージを受け止めて涙を流している生徒もいました。単なる英語学習のための英文ではなく、現実問題として平和や差別についての考えを深めるきっかけになったと思います。感じるものが大きいほど、イメージが膨らみ、自分の考えを書いて伝え合う活動では表現が豊かになっていきます」

授業の最後の“*What kind of world do you want to live?*”とどう問うには、生徒が自身の問題意識を基に、飢餓や移民、教育の平等性など、様々な意見を提示した。

「この生徒も、関係詞の“*where*”を用いて表現していました。もっとも、生徒の多くは、今回の授業で関係詞を勉強しているとは思っておらず、平和や差別について考えて表現するこ



授業を通して生徒の思考が深まったことは、最後のライティングの記述量が非常に多いことにも表れていた。毎回、先生は一人ひとりのプリントをチェックし、文法事項の理解度を把握して次の授業に生かす。

とが目的だと捉えていたと思います」

生徒からは、「演説内容を読み、映像を見て、自分でも調べて意見をまとめたことで、他人事を感じていた差別について、ニュースなどでも意識するようになりました」という声もあった。

場づくりへの配慮

ペアワークを頻繁に取り入れ、話すことへの抵抗感をなくす

GDMでは、生徒は曖昧な理解の状態から実際に使っていく中で、次第にポイントをつかんでいく。そのため、失敗を恐れずに発言できる雰囲気づくりが欠かせない。そこで、三原先生はペアワークを多用している。2人であれば意見を伝えやすく、一度話した内容は全体に向けても発表しやすくなる。さらに、複数の場面を準備することで、生徒の発言量を多くしている。

授業デザインシート

【教科・科目】コミュニケーション英語

【設定時数】8時間中の7時間目

【分野・単元】分詞の後置修飾と、関係副詞 where の用法

【本時全体の目標】分詞の後置修飾と関係副詞 where の用法を理解するとともに、キング牧師の演説などを通して、平和や差別について考える

【テーマ・作品】マーティン・ルーサー・キング・ジュニア

学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各学習内容における主な目標(身につけさせたい力・姿勢)	左記の力・姿勢の「学力の3要素」への分類	左記の力・姿勢を育むための指導内容	教師による発問・働きかけの内容	教師が特に観察・配慮すべき点
分詞の後置修飾と関係副詞 where の用法	<ul style="list-style-type: none"> • 目の前のいろいろな状況から帰納法的に take, speak を正しい形にして文の中で使うことができる。 • 疑問詞 where を関係詞として用い、必要な情報をつけ加えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 知識 • 思考力 • 判断力 • 表現力 • 主体性 • 協働性 	<p>【教師】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 冬休みの出来事についてペアで伝え合わせる。 • 過去分詞 taken を用いないと区別することができない日の出、夕焼け、夜景の3枚の富士山の写真を見せ、どれが好きかを発表させる。 • 次に、富士山にまつわる有名な言葉を紹介して、spoken を正しく使って表現させる。 • 行きたい国や住みたい国を話し合わせ、それを関係詞 where を使って表現させる。 <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分が一番好きな富士山の写真を過去分詞 taken を用いて伝えることができる。 • 行きたい国とその理由について、関係詞 where を使ってまとめながら言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 和文英訳ではなく、taken ～、spoken ～といった過去分詞句をつけ加える必要がある状況から英文を作らせる。 “Which picture of Mt. Fuji do you like the best?” “I like the picture of Mt. Fuji taken in the morning the best.” • ほかの生徒の発表を自分のものと比べながら聞かせる。 • 常に生徒は自分の立場で発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 文法用語を使った説明や日本語訳を用いることなく、目の前の事実や自分の考えを英語で伝え合う活動を通してコミュニケーション能力を高める。 • シンプルでクリアな場面づくりを心がける。 • 自分の考えや分からない点を安心して聞き合える雰囲気になるようサポートする。
キング牧師による演説、教科書本文	<ul style="list-style-type: none"> • キング牧師の演説内容を読み、動画を見る。キング牧師と聴衆とが一体となって黒人の権利を勝ち取ろうとする姿を見ることで、人間の尊厳について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 知識 • 思考力 • 判断力 • 表現力 • 協働性 	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアで本文を読み合い、単語チェックをし、内容を考える。文字だけでなく、動画で本物の演説を見ることで、その場の臨場感を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教師主導ではなく、生徒のペアでの活動を通して内容理解、思考を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> • 間違えても恥ずかしくない、安心して聞き合い、助け合い、英語をどんどん発することができる雰囲気になるようサポートする。
世界にはどのような問題があるのか、自分なりの意見を言う	<ul style="list-style-type: none"> • 身の回りのことから世界の国々まで、各自が問題だと思うことについて考え、英語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 知識 • 技能 • 思考力 • 判断力 • 表現力 • 主体性 • 協働性 • 多様性 	<ul style="list-style-type: none"> • 2学期から人種差別、アイデンティティーなどの問題について読み、考え、調べ、英語で表現するという活動を続けている。本時では、関係副詞 where を用い、“I want to live in a world where _____” で表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> • 自分の思いを英語で表現できるよう、個別にサポートする。

*三原先生作成の授業デザインシートを編集部が一部改編

成果と課題

4 技能を測る外部検定試験で生徒一人ひとりの伸びを評価

生徒はたくさん話す中で間違えることも多いが、三原先生はそれを指摘しないため、恥ずかしいという感覚は持たなくなるといふ。

定期考査は教科書の内容を復習すれば正解できる問題も出題するが、学んだテーマに関連した別の初見の文章を読ませて内容を問うリーディング問題や、そのテーマについて自分の意見を表現したり、学んだ表現を使ってストーリーを作ったりするライティング問題を出題するなど、暗記に頼らず考察させることに重点を置く。時には辞書・教科書・ノートを持ち込み可とする場合もある。

そうした授業改革の成果は、スピーキングを含めて4技能の伸びを客観的に測定するベネッセの「GTEC for STUDENTS」のスコアや各種検定の上位級の取得結果にも着実に表れた。

現在、同校では、3年間を通じた指導計画、CAN-DOリスト、ルーブリックを作成中で、指導と評価を一体化させて授業改善を行うサイクルを機能させたいと考えている。

「生徒には、英語が好きになり得意になるにつれて、世界が広がることを実感してほしいと思っています。これからは生徒が本気で考え、語る場面を多く設け、英語力だけでなく、人間力を高める学びを築いていきたいと思っています」

11:10 授業開始



この日、最初に発表を行うグループは、授業が始まる前にあらかじめ板書を行った。岩本先生が教室に入ると、全員がいったん着席し、65分間の授業がスタート。まず、「葵」前段と「賢木」中段の音読を行う。日替わりのグループリーダーが段落ごとに読み上げ、その後が続いてほかの生徒全員が音読。この日は2回通読した。

授業
ハイライト

●普通科の1年生「国語総合」(古典)の授業で、題材は「源氏物語」の「葵あおい」「賢木さかき」。この日は、習得した知識を活用して読みを深めることを目標に、グループ別に、品詞分解や現代語訳、情景説明の発表が行われた。(P.31に授業デザインを掲載)

主体的・対話的で
深い学びへ

実践
アクティブ・ラーニング

古典

A Lの意義の理解と
学び合いの楽しさが、
古文の世界の情景を豊かに語らせる

岩本先生のアクティブ・ラーニング

生徒の学びの意欲を原動力に
深い心情理解に挑む

主語が省略されやすい古文において、登場人物が多様な「源氏物語」は高校生にとって読解が難しい題材だ。しかし、岩本先生は「愛情や嫉妬など、高校生も共感できるテーマが盛り込まれており、指導の仕方次第で深い読みが生まれる可能性を持っている」と説明する。



山口県立大津緑洋高校

岩本隆行 いわもと・たかゆき

教職歴 17年。

同校に赴任して1年目。生徒指導部。

アクティブ・ラーニングの実践は1年目になる。

山口県立大津緑洋高校

◎2011年、山口県立大津高校、^{へき}日置農業高校、水産高校の3校が統合し、普通科、農業系学科、水産系学科を置く新設校としてスタート。3つの校舎で教育活動を展開する。ラグビーを始め、部活動も盛ん。

◎設立(大津高校) 1903(明治36)年

◎形態(大津校舎) 全日制/普通科/共学

◎生徒数(大津校舎) 1学年約100人

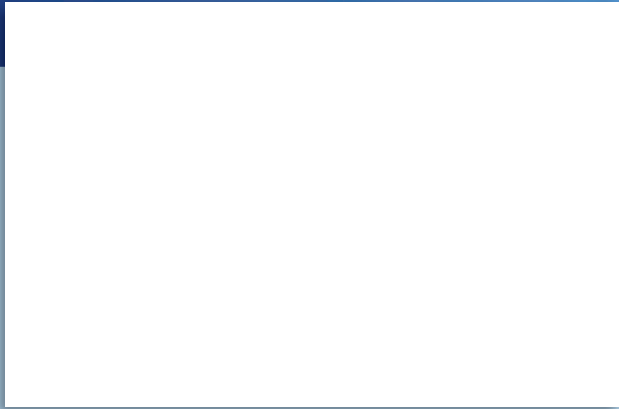
◎2016年度入試合格実績(大津校舎/現浪計)

国公立大は、筑波大、東京工業大、大阪大、広島大、山口大、九州大などに40人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ138人が合格。

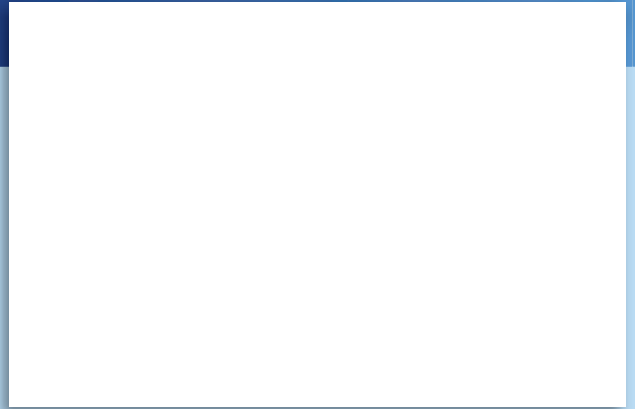
◎URL(大津校舎)

<http://www.ohtsu-h.ysn21.jp/>

*プロフィールは2017年3月時点のものです



最初のグループが発表。「技能面」「内容面」でプレゼンテーションの見通しを述べた後、注意すべき文法事項の整理、現代語訳、情景説明と担当者が入れ替わりながら発表。特に、情景説明では「みんなも恋しますよね？ 何か月も彼から連絡が来なかったらどんな気持ちになりますか？」などと自分たちに引きつけながら語った。



最初に発表するグループが板書を再開。前の授業で発表の役割分担は済んでいるため、作業は滞りなく進む。その間、ほかのグループの生徒は自分たちの発表の準備を行う。



グループ発表が中心の授業は予習が大変ですが、その分、深いところまで理解できますし、授業内容が頭に残るので、定期テストの勉強がこれまでよりも楽になりました。

■ 1年生「国語総合」(古典)年間指導計画

学期	教材	文法事項など	主な学習形態		
1	中間	宇治拾遺物語・竹取物語	品詞・活用	インプット型 一斉授業	
	期末	伊勢物語	用言の活用	インプット型 一斉授業	
		漢文訓読	訓読の基礎		
夏期課外	源氏物語	助動詞	インプット型	一斉授業	
2	中間	伊勢物語	品詞分解	アウトプット型 グループ学習	
		十八史略・戦国策	否定・禁止	インプット型 一斉授業	
	期末	土佐日記	品詞分解	アウトプット型	グループ学習
		十八史略・戦国策	反語・使役		
冬期課外	源氏物語	敬語	インプット型	一斉授業	
3	期末	十八史略・唐詩	抑揚・比較・詩形	アウトプット型	グループ学習
		宇治拾遺物語・源氏物語	読解		

*岩本先生提供の資料を基に編集部で作成

3 時間にわたるグループでの品詞分解や現代語訳を経て、4 時間目となるこの授業から、登場人物の心情理解を中心としたグループ発表へと移る。生徒たちは「妊娠中の葵の上は体調が優れなかったが、スーパーアイドルの光源氏の姿を見られないのは悔しくて……」と物語に描かれる情景を示し、屈辱、絶望といった登場人物の感情を文中の重要語句を挙げて説明する。「生徒は、インターネットを使って、登場人物の置かれた状況や当時の社会背景を精緻に予習し、発表します。それを私が褒めるので、生徒はさらに新しい知識や独自の見解を披露しよ

うと、ますます学びへの意欲を高めていきます」授業では、原則として品詞分解は生徒が行う。生徒の説明が曖昧でも、心情理解が中心の授業の時は生徒の集中を遮るほど細かくは補足しない。単元終了時に、文法事項をまとめた自作プリントを配布し、知識の整理を援助するからだ。

インプット型学習で生じた学力差がアウトプット型学習で解消される

部活動や地域活動での主体性を教科学習でも発揮させたいと考え、2016年度の2学期から本格的にアクティブ・ラーニング(以下、AL)に取り組み始めた岩本先生。教師からの説明が減った代わりに、生徒が表現する時間は増えた。「インプット型学習は変わらず必要です。実は、1学期には教科書を基に作ったプリントで徹底的に基礎固めを図りました。その成果を、2学期からのアウトプット型学習で確認しようとしたことで、バランスよくALを取り入れることができたのです。1年間を通じて、いつ、どのような力を、どんな指導で身につけさせるか見通すことが重要だと感じています」

インプット型学習の充実を重視する岩本先生は、古文単語を品詞別に分類、整理する「語句ノート」(P.30参照)を生徒に作らせている。「ノートは適宜チェックし、平常点に加えています。アウトプット型学習で自力で文法を整理する習慣がついているからか、ノートは全員しつかり作成し、未提出者はいません」



次のグループが発表準備のための板書を開始。ほかのグループは第1グループの発表を受けて、発表内容を改めて吟味し、修正する。岩本先生はその様子を見守り、アドバイスする。

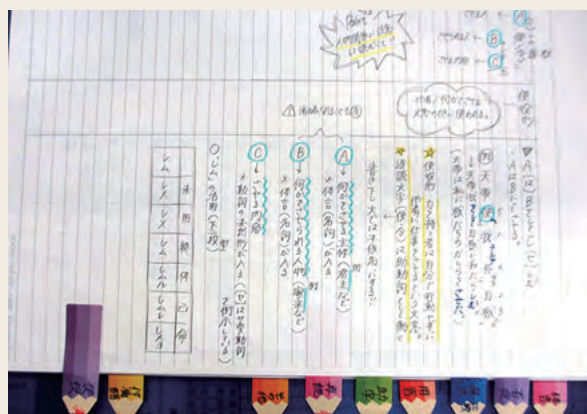
生徒の声 友だち同士だから相談がしやすいです。説明が分からない時は正直に「分からない!」と言えるので、本当に自分が理解するまで聞くことができます。



約15分で最初のグループの発表が終了し、質疑応答に入る。岩本先生からは、発表した生徒たちに、登場人物の心情把握は文法事項の正確な理解に基づくものかどうかを確認する質問もなされた。そして、古文の心情説明には一見似つかわしくない「ヒートアップ」といった生徒が発した言葉は、できるだけ生かしながら、より丁寧に情景を説明・補足していく。

生徒に過去の経験と 作品の情景を関連づけさせる

思考の活性化・深化への配慮



生徒の「語句ノート」。新しい単語を品詞別に分類・整理していく。自分が理解しやすい形でまとめさせるため、ノートの書式は生徒によって様々。その分、チェックに時間がかかるが、学習内容の理解や関心の度合いは読み取りやすい。

インターネットを使った予習があたり前の今、表面的な解釈を生徒に求めている限りは、知識の定着や読解の深さを見取ることは難しい。「だからこそ、普遍的な問いを生徒に投げかけることが大切です」と岩本先生は語る。

「内容を理解した気になっている生徒が『そう言われてみれば……』と再び考え始めるような問いをつくるのが教師の役割です。そして、生徒の言葉を生かして授業を展開することも大切です。自分たちの言葉で授業が動いたことを察知すると、生徒はさらに思考を活性化させ、

ALの社会的な意義を 授業の中で生徒に語る

場づくりへの配慮

言葉を発するようになります」

岩本先生が特に気をつけているのは、自分の解釈や感動を、生徒に安易に差し示さないことだ。例えば「葵」では、「悔し」「かひなし」など片思いに苦しむ心情を表す言葉が出てくるが、そうした重要語句も、生徒に過去の経験とリンクさせながら意味を理解させ、登場人物の心情理解へと発展させるようにしている。

「『気になる人とSNSでやり取りしていて、既読になっていけれど返信がない。そんな時にどんな気持ちになる?』などと、生徒の経験を掘り起こしながら作品に向き合わせるよう、生徒の表情と自分の言葉に気を配っています」

同校はコミュニティ・スクールの活動が活発なため、地元企業と商品開発に取り組み、その成果のプレゼンテーションを行う生徒が多い。さらに、岩本先生が担任を務める1学年団では、HR活動などで平素から人間関係構築を目的とした体験型学習を取り入れるなど、教科外活動で生徒のアウトプットの機会を多く設けている。そうした活動で生徒が身につけたスキルが、ALにも還元されていると岩本先生は考える。

「授業中、私は、『プレゼンテーションのスキルや協働する力は、将来の仕事や大学での学び

授業デザインシート

【教科・科目】国語総合・古典

【設定時数】5時間中の4時間目

【分野・単元】古文

【本時全体の目標】本文を理解（品詞分解・現代語訳・心情理解）し、プレゼンテーションを行う

【テーマ・作品】源氏物語

学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各学習内容における主な目標（身につけさせたい力・姿勢）	左記の力・姿勢の「学力の3要素」への分類	左記の力・姿勢を育むための指導内容	教師による発問・働きかけの内容	教師が特に観察・配慮すべき点
本文を音読する	文節や単語の区切りを意識して音読することにより、正確な読解につなげる。また、楽しみながら音読することで作品を読み味わう。	<ul style="list-style-type: none"> 技能 表現力 	<p>【教師】1回目は教師の範読の後に生徒が音読。2回目は代表生徒の後に全員が音読。3回目は全文を生徒だけで音読。</p> <p>【生徒】回数を重ねるごとに場面がリアルに想像され、声質にも自信が増してくる。</p>	回数を重ねるごとに朗読の質が上がるように、よい点を積極的に評価する。	楽しんで音読すること。
プレゼンテーションを行う	グループ内でつくり込んだ案を基に実践することで、プレゼンテーション力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 技能 判断力 表現力 主体性 協働性 	<p>【教師】教室の後ろに座り、ファシリテーターの役割（号令、進行、助言）を行う。</p> <p>【生徒】担当グループが順番に前に出て、プレゼンテーションを行う。自分たちが立てた「見通し」の下、グループ内で板書や説明などの役割を決め、独創的で説得力のあるプレゼンテーションを目指す。</p>	プレゼンテーションが「見通し」に向かっていているかを常に評価する。	分かりやすく説得力のあるプレゼンテーションであること。すなわち、ほかの生徒たちの立場になってプレゼンテーションを行えること。
プレゼンテーションを受けて各グループの読解を検証し、必要があれば質問をして読みを深める	ほかのグループの手法を自分たちのプレゼンテーションに生かそうとする。また、ほかのグループの発表内容を自分たちの読解内容と比較することで、より深い理解を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 思考力 主体性 多様性 協働性 	<p>【教師】教室の後ろに座ったままほかのグループから質問がないかを聞く。また、必要があれば得意即妙な質問を全体に投げかける。</p> <p>【生徒】プレゼンテーションが終わった後、時間を取り、各グループの読解内容を検証する。ずれが生じれば質問をし、読解を深める。</p>	多くの意見や質問により、議論が活性化されるように促す。また、必要があれば質問を投げかける。	ほかのグループのプレゼンテーションの内容が、自分たちの読解をさらに深めることに役立つこと。
すべてのグループのプレゼンテーションが終わった後、振り返りを行う	全文の文法事項や現代語訳を最終確認するとともに、自分たちのプレゼンテーションを振り返り、次の単元へと生かそうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 思考力 主体性 多様性 協働性 	<p>【教師】各グループの取り組みを巡視しながら、適宜声かけをする。</p> <p>【生徒】グループ内で反省点を話し合い、プレゼンテーションシートに記入する。</p>	グループの全員が反省点を挙げるように促す。	反省点を挙げることで自分たちのプレゼンテーションを客観的に捉え、次回のレベルアップにつなげようとする。

*岩本先生作成の授業デザインシートを編集部が一部改編

成果と課題

教科学習を通して未来を切り開く力を養う

岩本先生にとって大きな発見だったのは、生徒同士の教え合いが多くなると、1学期に生まれた学力差が縮まってきたことだ。一斉授業では理解が追いつかない生徒も、生徒同士の丁寧な学びによって遅れを取り戻してきたのだ。

「ALを始めてからは定期考査の欠点者もゼロで、模試の成績も上がっています。ALを通して、生徒の伸びしろの大きさに気づきました。今後も、生徒が古典の『学び方』を学ぶ中で、教科の枠を超えた主体性や課題発見力を身につけられる授業を追求していきます」

に役立つだけでなく、大学入試でも武器になる』と繰り返し説明します。教師がALの意義を明確に伝えることが、生徒の学習意欲の向上につながります」

そして、生徒の挑戦を褒めることが大切だと岩本先生は話す。

「『この板書は美しい』『今の表現は分かりやすかった』と前向きに評価することが重要です。生徒が何かに取り組んだ直後、教師の第一声が『もっとこうしなさい』だと生徒は萎縮します。『もっと上手に伝えたい』『自分ならうまく伝えられるはず』という意欲と自信を引き出すことで、生徒はさらに主体的に学んでいきます」

中高接続の推進

6年間で効果的に育成、 教師が足並みをそろえ、 生徒の学力と進路意識を

変革のステップ

背景と課題

- 中高一貫校のメリットを生かし、6年間を見通した指導で学力の向上と高い志の育成を両立させることを目指す

実践内容

- **学校生活の成果を可視化** 「あしあとカード」で学校生活における生徒の多様な活動をポートフォリオとして蓄積
- **補習・課外の工夫** 土曜補習の対象集団ごとの目的をはっきりさせ、夏期課外は対象学年を中等部3年生と高校3年生に限定する工夫をした
- **「高い志」の育成** 夏期課外の仕組みを工夫し、夏季休業中に体験活動に充てる時間を確保。進路資料室を整理し、生徒の目を進路情報に向けさせる

成果と展望

- 志望校選択や志望校の過去問題に取り組む時期が早まるなど、進路に対する生徒の意識が高まった
- 中等部においても、模試が活用され始め、データを用いた指導の質が向上している

PROFILE



静岡県立浜松第二中学校（旧制）として開校。校訓として「高い知性（知）・豊かな心（仁）・たくましい力（勇）」を掲げ、国際社会におけるリーダーを育成するための教育活動に取り組んでいる。2002年に中等部を設置し併設型中高一貫校となった。

設立	1924（大正13）年
形態	全日制／普通科／共学
生徒数	1学年約240人（高校）

2016年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、東北大、東京大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大、首都大学東京、静岡県立大などに118人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ573人が合格。

住所	〒432-8038 静岡県浜松市中区西伊場町3-1
電話	053-454-4471

Web site <http://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsunishi-h/home.nsf/>

学校全体で課題を洗い出し 改革の方向性を確認

静岡県立浜松西高校・中等部では、全校を挙げて学校改革に取り組んでいる。そのきっかけは、中等部10期生が高校に入学した2014年に、管理職や分掌の課長、学年主任からなる運営委員会で、中高一貫校としての取り組みを振り返り、今後同校が進むべき方向性を検討し始めたことだ。議論の末、次の3つの課題が浮かび上がった。

1つめは、中高接続の推進だ。中等部の設置当初は中高の教師の乗り入れ授業などにより、教師間の交流が活発に行われていたが、持ち授業時数の関係などにより、近年は縮小傾向に

*プロフィールは2017年3月時点のものです

あった。また、指導ノウハウなども共有する必要があったと、中等部1年生から持ち上がり、16年度高校3年生を担当する進路課の田開洋史^{たひらひろあき}先生は振り返る。

「当時、高校籍の教師として、中等部が重視する生徒指導や人間形成の取り組みを理解し、高校の指導で引き継いでいきたいと感じていました。一方、中等部においても、学習習慣の定着や模試の活用など、高校進学後にも生きる指導を意識的に進めたいという思いがありました。6年間にわたる系統的な指導を模索していくには、中高の教師が互いに歩み寄る必要があると感じています」

2つめは、学力差の解消だ。同校は中等部へ



静岡県立浜松西高校・中等部
河西伸之 かわにし のぶゆき

教職歴24年。同校に赴任して9年目。進路指導主事。「『己、未だ救われざるに人を助けんと一念発起す』の思いで務めています」



静岡県立浜松西高校・中等部
西脇 洋 にしわき ひろし

教職歴21年。同校に赴任して15年目。進路課。「『分かる』を『できる・使える』に。悔いのない進路選択ができるよう支援を続けたい」



静岡県立浜松西高校・中等部
田開洋史 たひらひろあき

教職歴19年。同校に赴任して6年目。進路課。「生徒一人ひとりが最高の進路選択ができるように、今できることに時間を惜しまない」



静岡県立浜松西高校・中等部
松下貴晴 まつした たかひろ

教職歴15年。同校に赴任して4年目。中等部進路課長。「教科でも進路でも生徒の視野や可能性が広がる支援を心がけたい」

適性検査を経て入学するものの、入学後に学力差が広がる傾向にあった。数学と英語は中等部3年生以降、習熟度別クラスを設けて対応しているが、中等部からの内部進学者には、学力不振に悩む生徒もいた。

3つめは、教育目標に掲げる「高い志」を生徒に育むための進路指導の追究だ。進路指導主事の河西伸之^{かわにし}先生は次のように語る。

「高い志を抱くことは、学力を伸ばす原動力になります。進路意識の醸成と学力向上をもとに重視するという方針を改めて打ち出し、それに沿って教育活動を見直していききたいと考えました」

生徒の成長過程を可視化し 生徒自身に気づきを促す

1つめの課題「中高接続の推進」については、生徒の学力を継続して測れる体制の整備を進めている。例えば、同校では中等部生の学力を測る尺度として、中高一貫校を対象としたベネッセの「学力推移調査」(*1)を実施してきた。しかし、春と冬の回は全員実施だったものの、10月実施回は希望参加であったり、学力推移がモニターしにくい状況が生まれていた。そこで、10月実施回への全員参加について、中等部の合意形成を2年間かけて達成した。また、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」が始まる20年度に向けた対策として、生徒の思考力・判断力・表現力の測定に特化したベネッセの「中

学総合学力調査」(*2)も、15年度入学生から受験している。さらに、教師の目線を合わせるために、6年間に行う模試の一覧表を作成し、一つひとつの模試のねらいも明記している。

「中等部でも、全国を意識して生徒の学力を把握する文化を育みたいという思いがありました」(河西先生)

6年間における生徒の成長の軌跡を、生徒と教師が共有するためには、「あしあとカード」(P.34図1)を活用する。「あしあとカード」は、学習や読書、部活動にいかに取り組んだかなどを生徒自身が記録するツールで、担任が回収・点検する。中等部版と高校版の2種類がある。

中等部版では、名言の暗唱、各種検定資格の取得状況、ボランティア活動への参加実績など、多彩な活動を記録する欄を設けている。

「『中等部発足当時の先生方がつくった教養主義的な活動を風化させてはならない』という思いから、私が中等部進路課長だった7年前に『あしあとカード』を作成しました。本校中等部ならではの各活動の成果を、一元的に記録することが目的でした」(河西先生)

高校版では、志望大学・学部、個人面談での内容、気になる大学のオープンキャンパスの訪問記録など、進路に関する欄を多く設けている。また、高校では、「あしあとカード」を保管するクリアファイル¹を16年度から一括購入し、「あしあとファイル」と呼ぶことにした。模試の成績帳票、各種講演会やオープンキャンパスの感

*1 中高一貫校の中学校向けアクセスメント。

*2 「教科の思考力・判断力・表現力」を測定し、段階別評価を行うテスト。国語・数学・英語に加え、合教科型のテストも含まれる。

想文などを一緒にファイリングするように指導している。16年度高校1年生を担当した進路課の西脇洋先生は、次のように話す。

「中部部から入学した高校1年生は『あしあとカード』も4年目。自分の取り組みや学びが蓄積されていくファイルですから、それを見返すことで、生徒は自分の志向や適性がよく分かります。そのため、志望理由書や小論文の作成にも取り組みやすくなるでしょう。また、担任としては、ファイルをチェックすることで、生徒一人ひとりの状況が把握でき、理解が深まると実感しています」

基礎固めを徹底し、生徒全員の学習意欲を高める

2つめの課題「学力差の解消」については、成績層別の指導を推進した。まず、土曜補習「サタデークラブ」の目的を成績層別にはっきりさせた。成績上位層向けの講座では、数学・英語の発展的な内容を学ぶ。その一方で、国語・数学・英語の基礎的な内容の講座を設け、授業の復習や定期考査対策を、時には生徒を指名して実施し、生徒の学習意欲を引き出すように心がける。

「生徒が『分からなかったところ』が分かるようになった」と、自分の成長を実感できるように段階的に指導しています。また、生徒には学習や補習の重要性、自分のために学ぶという姿勢が必要であることを繰り返し伝えていきます」（西脇先生）

「あしあとカード」(例)

図1

中部部版

教養主義的な活動を重視するため、読書や名言の暗唱、ボランティア活動など、学習に関すること以外にも様々な内容を書く。

高校版

読書や部活動の取り組みなどに加え、進路に関する欄を充実させている。志望大学・学部・学科名や、大学で学びたい内容などのほか、面談から得られた気づきなどを書くように指導している。

* 同校の資料を一部抜粋して掲載

また、夏期課外の仕組みも改めた。従来は高全6学年で進路課主催の夏期課外を行っていたが、対象学年を絞って中等部3年生と高校3年生だけにした。その理由は、高校3年生への指導を充実させるためだ。

「先生方の所属学年を問わずに高校3年生の指導をお願いできるようになれば、課外をさらに手厚くできます。少人数制指導などに

より、生徒個々の課題に応じて手を差し伸べ、大学入試に向けてしっかり基礎を固めさせたという思いがありました」（河西先生）

友人の頑張りから刺激を受け、互いに高め合う生徒たち

夏期課外の工夫は、学校改革の端緒になった3つめの課題「高い志の育成」についても効果

を表している。夏期課外の対象者を限定することで、下級生に時間的な余裕をつくり、進路意識に影響するような特別活動に取り組みやすくさせたいと考えた。

そのため進路課では、夏季休業中の体験活動に関する情報を生徒に向けて盛んに発信したほか、進路室前の掲示板を整備し、オープンキャンパスのチラシや体験活動のパンフレットを生徒の目につきやすいように配置した。その結果、大学のオープンキャンパスには、高校2年生までに約8割の生徒が参加するようになった。

15年度に始まった「西山台チャレンジサポート事業」も追い風になっている。同事業は、生徒が未知の体験を通して、主体的な判断力や行動力を身につけられるように、長期休業中の特別活動を支援。事後報告書の作成を条件に、特別活動の補助金を申請者1人につき5000円を上限として支給する。生徒が参加する活動は、中高生対象の校外の教養講座や体験活動、NPO主催のボランティア活動、短期海外留学など多彩だ。この事業の影響もあり、16年度の中等部1・2年生は、補助金の有無にかかわらず6割以上がボランティア活動や何らかの体験活動に取り組んだ。中等部進路課長の松下貴晴先生は、次のように話す。

「補助金を受けた生徒が書く報告書は進路通信に掲載して、体験をできるだけ広く共有できるようにしています。友人の頑張り刺激を受け、『来年は自分も参加したい』と意

欲を燃やす生徒が目立ちます。中には、自分で情報を収集し、我々も知らないイベントに参加する生徒もいます」

進路情報の提供の面でも、「高い志の育成」につながるように工夫を凝らしている。例えば、どの生徒も進路資料室を利用しやすくするように、資料の配置を大幅に見直した。進路資料室の奥にあった職業調べのための書籍群は、進路室前の廊下に設置した本棚に移し、有効に活用できずにいた大学の定期刊行物や広報誌も表紙を前にして進路室前に新設した本棚に並べ、生徒の目につきやすくした。進路資料室内にも本棚を増設し、入試過去問題集を国公立大学はほぼすべて、私立大学も網羅的にそろえ、現在では直近6年間に販売された入試過去問題集が手に取れる状態をつくった。入試過去問題集の所蔵数は以前の2倍以上になっている。

「生徒に進路資料室への来室を奨励しましたが、なかなかこちらに足が向きませんでしたが、なかなかこちらに足が向きませんでしたが、そこで、『生徒が来ないのなら資料を生徒に近づけよう』と発想を切り替え、廊下のデッドスペースを有効活用することにしたのです。今後は自習スペースも拡張し、生徒がより身近に進路資料室を活用できるようにしていきたいと考えています」(河西先生)

生徒一人ひとりに応じた きめ細かな進路指導を追究

6年間を見据え、教科学力から体験活動に及

ぶ幅広い改革に取り組んだ成果は、様々なところに表れている。例えば、高校では以前よりも早い時期に志望校を意識する生徒が増え、過去問題にも早くから取り組む姿が見られるようになった。前述した通り、中等部を中心に夏季休業中の特別活動への参加が活発化していることが、高校での主体的な進路選択に結びついている可能性がある。また、教師は模試のデータや「あしあとカード」を通して生徒の変化にも気づきやすくなり、指導にも生かされるようになった。中高における生徒の情報共有も進んでいる。例えば、中等部3年生は高校3年生担当教師による高校入学前面談を2月に受けるのだが、その面談資料として「あしあとカード」は有効活用されている。また、高校1年生の「あしあとファイル」には、中等部時代に書き込んだ「あしあとカード」を見つかることもできる。

一方、課題は中高の教師がさらに連携を深め、6年一貫教育の系統性を高めていくことにあると田開先生は考えている。

「どのような生徒を育てていくのか、中高の教師が連携をさらに密にして、方向性をしっかり共有していきたいですね。特に、生徒と向き合っている私たちとしては、学年団でアイデアを共有し、必要な手間を惜しまずにかけてあげて、生徒一人ひとりが将来と真剣に向き合い、自分に最も合った進路を選択できるように、指導改善を重ねていきたいと考えています」

基礎学力、専門教育、 進路指導の充実を図り、 地域を支える人材を育成

変革のステップ

背景と課題

- 地域の中学生の人口が今後急減していく中で、地域に選ばれる学校となるため、魅力的な学校づくりに着手

実践内容

出雲農林高校魅力化構想

- 校外の有識者を交え、魅力的な学校づくりを検討。「基礎学力の充実」「専門教育の充実」「進路指導」を柱とする方針を決定

【サイエンスアプローチ】 基礎学力の定着を図るための学校設定科目。3年間を通して段階的に学び直しを継続

【課題研究】 地域の農業に関連する探究活動。大学や研究機関、地元企業とも連携し、専門性の高い研究に取り組む

1年生からの進路指導 生徒の進路の視野を広げ、高い目標を持たせるために、進路検討会と面談を実施

成果と展望

- 募集定員の上限まで生徒を確保できている
- 基礎学力と専門性を身につけた生徒が育ち始め、進路実績も上向きに

PROFILE



島根県立今市農業学校として開校。校訓に「耕魂 育命」を掲げる。2016年度に文部科学省から「高校生基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の指定を受け、基礎学力の定着に向けた指導のあり方や教材開発を進めている。

設立	1933（昭和8）年
形態	全日制／植物科学科・環境科学科・食品科学科・動物科学科／共学
生徒数	1学年約160人
2016年度進路実績（現役のみ）	国立大は、島根大に2人が合格。私立大は、酪農学園大、東京農業大、武庫川女子大、南九州大などに延べ10人が合格。短大、専門学校進学64人。就職75人。
住所	〒693-0046 島根県出雲市下横町950
電話	0853-28-0321
Web site	http://www.izuno.ed.jp

従来の活動の発展と 新たな活動の推進を目指す

島根県立出雲農林高校は、2015年度、学校改革に向けて大きく舵を切った。そのきっかけは、地域の少子化が深刻さを増していることだ。佐藤睦也校長は次のように語る。

「本校は県内唯一の農業専門高校であり、地域の農業や農業教育を支える人材を育成する使命があります。生徒や保護者に信頼され、選ばれ続ける学校であるためには、従来の活動を発展させるとともに、新たな活動も推進していく体制づくりが必要だと考えました」
そこで、農業関連の研究機関や民間企業の職員といった校外の有識者で構成される出雲農林

*プロフィールは2017年3月時点のものです

高校魅力化推進委員会を設置。同校の現状や課題、改革案を委員に討議してもらい、その結果を基に「出雲農林高校魅力化構想」(図1)を打ち出した。柱として位置づけられたのが、「基礎学力の充実」「専門教育の充実」「進路指導」の3つだ。吉岡正弘教頭は次のように説明する。

「専門的な学びを深めるためには、普通教科・科目の学力を定着させておかなければなりません。また、生徒個々の能力や適性を把握し、その可能性の伸張を図るためには、1



島根県立出雲農林高校校長 佐藤睦也 さとう・むつや
教職歴33年。同校に赴任して2年目。「先生方とともに、『汗と涙と感動のある学校』を創ってきたい。」



島根県立出雲農林高校教頭 吉岡正弘 よしおか・まさひろ
教職歴33年。同校に赴任して3年目。「学び」とは、聞く構えを持って、人の思いをくみ取り、自分自身を変えていくことである。」



島根県立出雲農林高校 川上弘 かわかみ・ひろし
教職歴37年。同校に赴任して8年目。進路指導主事。「固定観念にとらわれず、教師らしくない教師でありたい。」



島根県立出雲農林高校 曾田稔 そだ・みのる
教職歴26年。同校に赴任して11年目。農場長。「仮説、観察、実験、考察、評価、修正の繰り返しの繰り返しにより、高水準の研究が生まれる。」



島根県立出雲農林高校 黒崎千春 くろさき・ちはる
教職歴28年。同校に赴任して5年目。教務主任。「すべては生徒のためという信念で教育活動に取り組んでいきたい。」

年生から十分に生徒の進路適性を検討することが必要です。3つの柱それぞれを充実させながら、関連づけの強化を目指しています」

学習に対する生徒の自信を高め、知的好奇心を育む

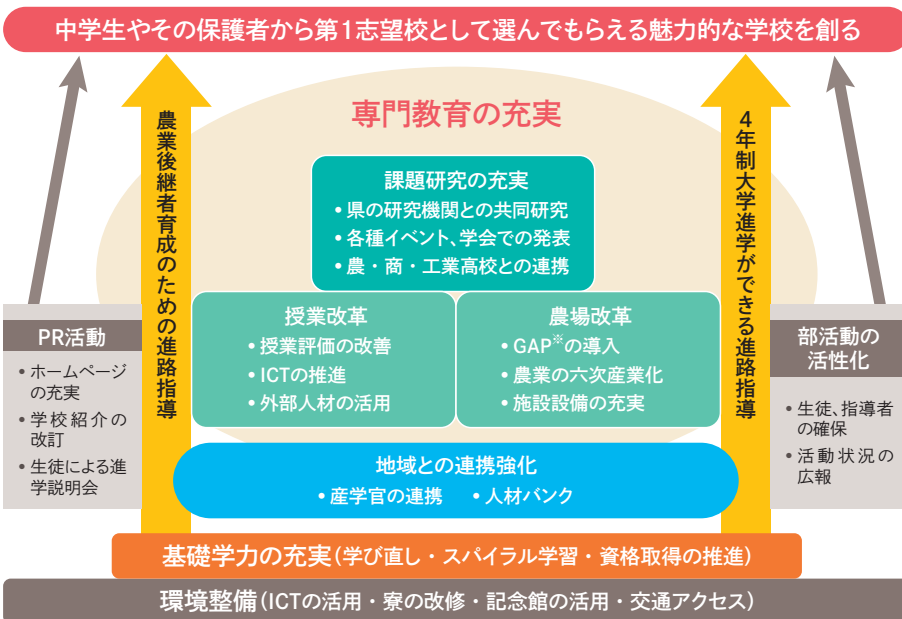
1つめの柱となる「基礎学力の充実」の中核となる活動は、学校設定科目「サイエンスアプローチ」(以下、「SA」)だ。3年間を通して段階的に学び直しを進める。16年度の1年生では、数学と英語でベネッセの「マナトレ」(※1)に取り組ませた。「マナトレ」は家庭学習などの教材として以前から用いていたが、数学と英語を苦手とする生徒が多いため、「SA」で導入。問題演習・自己採点に加え、教師が解説も行うことにした。学習の成果は著しく、ベネッセの「基礎力診断テスト」(※2)の結果では、GTZ(※3)がDゾーンの子は半減した(P.38図2)。

また、1年生の「SA」では、学び直しを進める一方、2年生から始まる「課題研究」の準備にも取り組む。「課題研究」では、農業に関する専門的な研究を行うため、研究テーマの設定の仕方や文献の調べ方といった基礎的な事項を「SA」で

身につけさせたいと考えた。教師による指導のほか、大学や研究機関の研究者を学期に1回招き、研究とは何か、地域が今どのような課題を抱えているかなどについて講演してもらった。1年生の「SA」に2つの役割を担わせる意図を、教務主任の黒崎千春先生は次のように語る。

「生徒は学び直しによって、『やればできる』という手応えを感じ、前向きに学習に取り組

図1 「出雲農林高校魅力化構想」の概念図

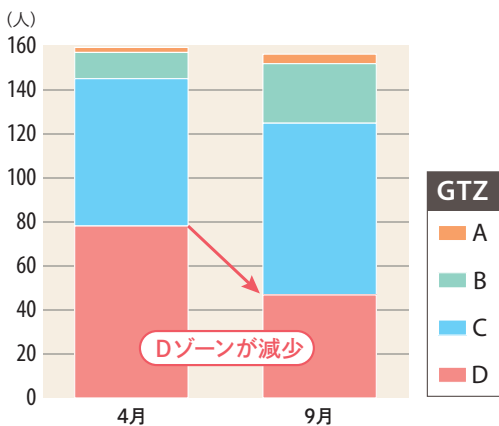


※ Good Agricultural Practice. 農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動。 * 学校資料を基に編集部で一部改編

* 1 ベネッセの教材の1つ。学習力を身につける、小・中学校範囲の学び直し専用のプリント教材。 * 2 GTZ (学習到達ゾーン) という指標で生徒一人ひとりの基礎学力の定着度と学習力、コミュニケーション特性 (自我同一性) を測る、ベネッセの生活・学習指導用テスト。 * 3 学習到達ゾーンのこと。ベネッセのテストにおける共通の学力評価指標。「S 1」～「D 3」の15段階があり、基礎力診断テストでは、そのうち「A 2」～「D 3」で評価される。

図2

2016年度1年生における「基礎力診断テスト」の成績推移



*学校資料を基に編集部で一部改編

校外の機関と連携し 高い水準の研究を推進

2つめの柱となる「専門教育の充実」では、「課題研究」を重視する。生徒が個人またはグループで地域の農業にかかわる研究テーマを設定し、全校生徒や保護者が集まる校内発表会など

んでいきます。並行して『課題研究』への意識づけを重ねて生徒の知的好奇心を高め、『専門教育の充実』につなげたいと考えています。また、各種検定試験に向けた学習も1年生から推奨している。

「資格を取得すれば、就職や進学に有利になるだけでなく、学習に対する自信も高まります。生徒には、『高いと思っていたハードルも努力で乗り越えた』という成功体験を多く積んでほしいと思っています」(黒崎先生)

生徒が考える時間を増やし、 知識を活用する力を高める

基礎学力と思考力・判断力・表現力を高める

「時間と情熱をかけて取り組んできたテーマであるだけに、生徒は堂々としています。日本砂丘学会全国大会では研究者から次々と鋭い質問をされたのですが、生徒はしっかりと受け答えをしていました」

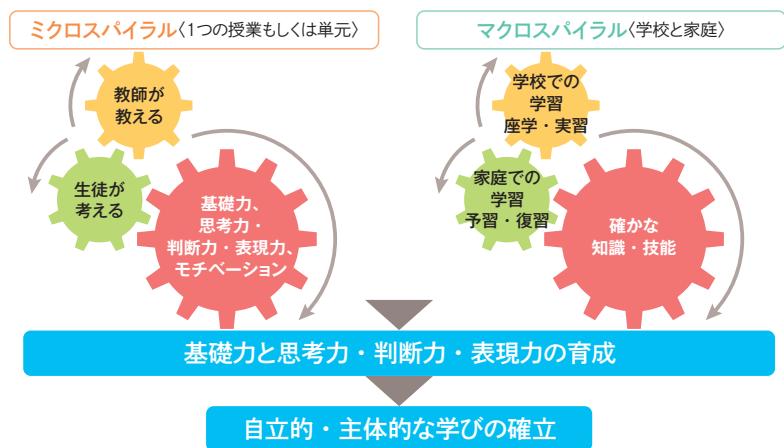
農場長の曾田稔先生は、校内外の発表の場に立つ生徒の姿を見て、成長を実感すると話す。

また、植物科学科のグループは、地元の建設コンサルティング会社と連携し、海浜植物「ハマボウフウ」の移植によって、海岸の砂の浸食を食い止める研究を行っている。研究内容は日本砂丘学会全国大会で発表し、最優秀賞を受賞。さらに、日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表でも優秀賞を受賞した。

例えば、動物科学科のグループは、絶滅が危惧されている地鶏「出雲コーチン」の種卵を鳥根県畜産技術センターに提供してもらい、その孵化と飼育に取り組んでいる。この研究は同県庁も注目しており、鳥根県と連携して育種に取り組み予定だ。

図3

「スパイラル学習」の概念図



*学校資料を基に編集部で作成

ために、「スパイラル学習」(図3)を進めている。「スパイラル学習」は、「マクロスパイラル」と「ミクロスパイラル」からなる。「マクロスパイラル」とは、座学と実習、授業と家庭学習を有機的に結びつける指導法で、知識・技能の定着を促すねらいがある。「ミクロスパイラル」とは、1つの授業もしくは単元に、教師が教える時間と生徒自身が考える時間をつくる授業法で、知識を活用する力を伸ばすために取り入れられている。つまり、「マクロスパイラル」「ミクロ

スパイラル」とともに、生徒がインプットとアウトプットのサイクルをしっかりと回し、より高い学習目標の達成を目指すことになる。

定期考査でも「スパイラル学習」を重視し、思考力・判断力・表現力を見る問題を全教科・科目で出題して評価している。

「自分で学びを深め、考える習慣を1年生のうちから身につけることで、答えが1つではないテーマに挑むことになる『課題研究』にも、取り組みやすくなります」（佐藤校長）

「スパイラル学習」の一環としてICTの導入も進め、16年度は12クラス中6クラスにプロジェクターを設置した。板書の時間が削減できる分、生徒が考える時間を以前より多く設けられるようになった。画像などを示して解説することも容易になり、生徒の興味を引きつける授業につながっている。また教師間のコミュニケーションも活発化している。

「教科や学年、教職歴などにかかわらず、先生方が自然に集まり、ICTを用いた授業の進め方について話し合う場面がよく見られるようになりました。ベテランと若手が交流するよい機会になっています」（吉岡教頭）

生徒一人ひとりの進路を 学校全体で検討する体制の整備

3つめの柱となる「進路指導」では、生徒の進路の選択肢を増やし、高い目標を持たせることに力を入れ、学科ごとの進路検討会を1年生

で1回、2年生で2回行っている。当該学科の教師のほか、校長、教頭、進路指導部の教師、農場長、各学科長が出席し、生徒一人ひとりにつき、定期考査や模試の成績推移、希望進路などを共有。今後の指導の方向性を話し合う。進路指導主事の川上弘先生は次のように述べる。

「学校全体で生徒の将来を考えるために、管理職を含む多くの教師が集まります。そうすることで、進路指導の経験が少ない担任でも、生徒の課題に応じた声かけなどが行いやすくなると考えています」

進路検討会の前後には、ベネッセの「実力診断テスト」（*4）の結果を活用して、個人面談もしくは三者面談を行う。事前の面談で生徒の希望進路を確認し、進路検討会での検討内容などを、事後の面談で生徒や保護者に伝えるという流れだ。

「生徒には、学習で得た成功体験を生かし、高い目標を持って努力してほしいと願っています。そこで、生徒が本心に進みたい道を見つけられるように、大学進学を含め、進路に多くの選択肢があることを1年生のうちから示しています」（川上先生）

先輩の姿から刺激を受け、 学習意欲を高める生徒たち

「出雲農林高校魅力化構想」の成果は、生徒の様子にも表れている。例えば、前述した通り、基礎学力を定着させる生徒が増えている。また、

自分が何をしたいのか、地域にどのように貢献したいのかなど、自分の将来をしっかりと考える生徒が目立つようになった。生徒が成長を遂げ、進路実現を図る姿を見て、地域の中学校では同校の教育内容や進路指導への評価を高めているという。地域からの信頼が強まった結果、入学志望者数が向上し、募集定員上限まで生徒を確保できている。

生徒の進路意識の向上とともに大学進学実績も伸び、17年度入試（推薦・AO入試）では、初めて全学科から国公立大学合格者が出た。

「生徒は、先輩の頑張りから大きな刺激を受けます。大学進学希望者はもちろん、民間企業への就職や公務員を希望している生徒も、学習に積極的に取り組んでいます。本校では、国公立大学合格者10人、公務員合格者10人という目標を掲げていますが、それが達成される日も近いと期待しています」（川上先生）

同校の改革は今後も続く。例えば、17年度には、普通教科・科目と専門教科・科目がどのように関連するかや、高校での学習が将来どのように役立つかなどを明示したフローチャートを作成し、進路指導などで活用する予定だ。

「意義や目的をしっかりと伝え、興味を引きつけられ、生徒は自ら学びに向かうようになります。先生方と今後も工夫を重ね、魅力ある学校づくりを推進していきたいと考えています」（佐藤校長）

*4 ベネッセの模試「進路マップ」の1つで、教科書レベルを中心に基礎学力を測るテスト。

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、各学年の年度初期の指導で活用できる「年間目標達成シート」について検討する。

Before

広島県立広島観音高校
長光優樹先生提供

「全学年 年度初期
年間目標達成シート」

課題

- 1 評価・軌道修正などの振り返りができる機能を持たせたい
- 2 学校が目指す生徒像と生徒の目標を関連づけたい

検討メンバー



ツール提供者
広島県立
広島観音高校
長光優樹
ながみつ・ゆうき



群馬県立
太田高校
新井高広
あらい・たかひろ



愛知県立
東海商業高校
新美廣勝
にいみ・ひろかつ

*プロフィールは2017年3月時点のものです

	組	番	氏名
大目標 (卒業までの目標)			
↓			
中目標 (今年度3月までの目標)			
小目標 やるべき ことの 具体的 内容	①	②	③
何ができればよいか・どうなればよいか			
①の評価指標			
②の評価指標			
③の評価指標			
④の評価指標			

振り返りによって 自信を醸成させたい

1年生3学期など、中だるみへの対策が必要な時期に、卒業までの目標を設定した上で今後の高校生活をどう過ごすかを考えさせるために、この目標設定シートを活用してきた長光先生。記入したシートは教室に掲示し、クラスの雰囲気づくりにも役立てており、今後は、各学年で年度初期の目標設定のために使用したいと考えている。しかし、現状のシートでは生徒が書いて終わりになっており、自分の成長を振り返り、自信が持てるような機能を備えていない。また、生徒によって目標のレベルや方向性がまちまちで、学年やクラスとしてのまとまりを生み出すシートにする必要性も感じている。

After



改良ポイント

1 学校目標や学年目標を意識しながら個人目標を考えさせる

⑦「大目標」「中目標」などではなく、「3年間で身につけたい力」などの生徒が理解しやすい言葉にする。

①目標を書かせる時には、あらかじめ文末を「～ができるようになっていく」などの状態を表す言葉に決めておく。偏差値や順位などの数値ではなく、「身につけたい力」として記述させることで、プロセスを自己評価できるようにするからだ。

2 学期に1回、振り返りができる仕かけを入れる

2017年度 年間目標達成シート

年	組	番	氏名	生徒会役員 HR役員	部活動
---	---	---	----	---------------	-----

1ア 高校卒業時の目標（3年間で身につけたい力、目指す人物像）

学校・学年の目標	
① 自分の目標	ができるようになっている

■ これまでの成果と課題を振り返って、今年度の年間目標を決めよう。

	学習	生活	部活動
これまでの成果と課題			
今年度の目標			

2 今年度の目標を達成するための学期ごとの手立て（取り組み）を決めよう。最初に1学期の手立てを決め、その結果を振り返り、評価してから、次の学期の手立てを決めていこう。

	学習	生活	部活動
1学期の手立て			
1学期の振り返り			
評価			
2学期の手立て			
2学期の振り返り			
評価			
3学期の手立て			
1年間の振り返りと評価			

1年次から継続してこの「年間目標達成シート」を活用することによって、生徒は成果や反省を次年度にもつなげることができ、3年間を通して自分自身の変化・変容を把握することが可能になる。

高校卒業時と各学年での自分の目標を考えさせる前に、まず学校目標や学年目標を確認して記入させることで、学校での様々な活動を通して自分が目指すべき方向性を意識させるようにした。また、その学年の中で自分の変化や成長を確認し、次への改善へとスムーズに結びつけられるよう、学期ごとに手立てと振り返りを書き込めるようにした。

学期ごとに振り返りを行い
次の手立てを考える

次ページでは、
3人の先生方の
検討の様子を
ダイジェストで紹介！



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

全学年 年度初期 年間目標達成シート



活用の流れ

- 1 年度初期に生徒に記入させる
- 2 生徒が記入した内容を基に面談を実施する
- 3 学期ごとに取り組みを振り返り、次の改善につなげる
- 4 次の学年でも同じ書式のシートを活用し、生徒が自己の成長を俯瞰できるようにする

年間を通じて、適切なタイミングで振り返りを

今回の改訂では、1年間を通して目標設定→振り返り→改善というサイクルを回していくことを大きな柱とした。検討会では「目標設定と振り返りは、夏休みや3年生0学期などのタイミングで、1〜3か月程度の短期間の節目で行うことが多いため、3年間を見通す取り組みは挑戦する価値がある」「スタートダッシュの繰り返しで3年間を終わらせないためにも、適切なタイミングでの振り返りを習慣化させるのはよいことだ」といった声が上がった。また、各学校の状況に応じて、生徒の目標や振り返りに対する担任からの

コメントや評価の記入欄を設けたり、記入後のシートを使って面談を実施したりといった、発展的な活用方法もいくつか提案された。

生徒に、学校目標や学年目標、クラス目標のどれを確認させるかについても、それらの言葉の具体性や生徒にとっての身近さによって、学校ごとに判断するのがよいという結論となった。また、このシートを通して、学校や学年目標を折に触れて生徒に確認させることで、担任が、各行事などの目標を学校・学年としての視点で語りやすくなるというメリットも指摘された。特に、若手や赴任歴が浅い教師が多い学年団では、個々の教師にとって指導のよりどころとなることが期待できるだろう。

検討メンバーの先生に、自身の指導観や自校の生徒特性を踏まえて、ツールの活用方法や留意点などをお話いただきました

1年生4月からの生徒との対話の土台にしたい

広島県立広島観音高校 長光優樹 ながみつ・ゆうき



本校には、中学校時代に手のからならない中間層だった生徒が多く、褒められたり叱られたりした経験が決して多くないと感じています。

だからこそ、高校では教師と対話する経験をたくさん積ませたいと思っています。今回の検討会では、「年間目標達成シート」を教師とのコミュニケーションをさらに促進するものにしてきました。

本校では、1年生の学習合宿で「高校生の決意」をテーマに作文を書かせていますが、今後はその作文に代えて、このシートを活用することも検討していきたいと思っています。まずは教師が「3年間でこんな生徒になりたい」「そのために各学年ではこんな力をつけてほしい」と生徒に話してから、このシートに取り組みさせます。空欄の箇所や抽象的な表現のところは、その後の面談で確認していくことで、生徒との対話が生まれ、生徒理解が進むはず。目標を掲げて、達成のための手立てを考へ、成果を評価し、さらに手立てを修正していくといったサイクルを回す力を、高校3年間で身につけさせたいと思います。

長光先生プロフィール 教職歴18年。同校に赴任して4年目。教務部。数学科。「現状に満足せずに、常に挑戦意欲を持った生徒を育てたい」
学校プロフィール 全日制・定時制/総合学科・普通科/共学/1学年約240人/2016年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、島根大、広島大、愛媛大、県立広島大などに46人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、広島修道大などに延べ370人が合格。

クラスの仲間や教師による他者評価も取り込みたい

群馬県立太田高校 新井高広 あらい・たかひろ



本校には、難関大学志望の生徒が多くいますが、彼らの関心事はやはり学習面です。本校で「年間目標達成シート」を使う時は、学習の欄を多く確保したいです。振り返りも、学期終了時だけではなく適宜途中段階で行うかもしれません。その場合、振り返りの記入欄を大きくすることで、学期の残りの時間により変化を生むことも期待できます。

また、生徒の自己評価の欄もうまく活用したいです。1学期、2学期は取り組みのプロセスを数値で、3学期は目標の達成度を記述で評価させるとよいでしょう。ただ、本校の生徒は目標が高い分、自己評価も厳しめになる傾向にあります。生徒同士で、相手の頑張ったところを裏面に書き合うなどして、自己肯定感を高めさせたいです。

担任のコメント欄もあった方がよいとは思いますが、担任の負担が増えてしまわないかが心配です。例えば、面談で出てきた教師の評価やアドバイスを、その場で生徒が書き込める記入欄を設ければ、担任の負担もある程度防げるかもしれません。

新井先生プロフィール 教職歴25年。同校に赴任して8年目。進路指導部。数学科。「正しい道を選ぶのではなく、選んだ道を正しくできる生徒になってほしい」

学校プロフィール 全日制/普通科/男子校/1学年約280人/2016年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、北海道大、東北大、群馬大、東京大、京都大などに136人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、早稲田大などに延べ494人が合格。

採用面接に向けたよりどころとして活用したい

愛知県立東海商業高校 新美廣勝 にいみ・ひろかつ



本校では、専門科目「課題研究」で生徒が日誌を書きますが、その内容に対する教師のコメントに、生徒は敏感に反応します。それだけ教師の言葉を大切にしているわけですが、その分、私たちも生徒への言葉が事務的にならないように配慮をしています。この「年間目標達成シート」でも、できるだけ教師がコメントを書き込んだり、取り組みを評価するシールを貼ったりして、励ます場面を増やしたいと思います。しかし、担任記入欄をあらかじめ設けることはせず、生徒の記入スペースとは別に余白を大きく確保して、担任が一人ひとりの生徒に合わせて、自由に書き込める体裁にしたいです。

就職希望者が多い本校では、このシートは志望理由書などと関連させて活用することもできるでしょう。企業も目標に向けて具体的な行動ができる人材を必要としており、採用面接でもそうした点を見ようとしています。このシートは、生徒が高校時代の成功・失敗体験を語る時のよりどころにできそうです。

新美先生プロフィール 教職歴25年。同校に赴任して2年目。進路指導主事。商業科。「自分への自信と母校への誇りを持った、社会に愛される生徒を育てたい」

学校プロフィール 全日制/総合ビジネス科・情報科(1年次は両科共通のカリキュラム。2年次より分かれる)/共学/1学年約320人/2016年度進路実績(現役のみ)/4年制大進学41人、短大、専門学校進学88人、就職180人。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています!

「改良! 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材を検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの先生方のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①~④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒様の情報が削除されているかご確認をお願いいたします

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容(目的・活用時期・活用方法)
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時~21時)にて承ります。(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者) 上記をご承諾くださる方はご送信ください。

*プロフィールは2017年3月時点のものです



理論と実験を結びつけ、 1年次から自分で考え行動する力を育む

筑波大学 生命環境学群 生物学類

実験を通して、 講義の大切さを実感します

実験に必要な知識をしっかり身につけ、一つひとつの操作の意味をきちんと理解して実験に臨むことが重要であると気づき、講義も前のめりで受けるようになりました。(木村さん)



研究室では発表の機会が多く、 コミュニケーション能力も身につきます

4年次で所属する研究室では、週1回、研究の進捗報告を行います。意見交換をする中で、相手に分かりやすく伝える力や対話力も鍛えられています。(大場さん)



メンバーからの助言や指摘が 研究を深めるきっかけに

研究の進捗報告の場では、仲間から異なる視点でアドバイスをもらえるため、失敗の原因が分かったり、行き詰まった時に次の手が見えたりします。(木村さん)

筑波大学生命環境学群生物学類では、生物学の研究に必要な素養を育成するため、1年次に、理論の基礎を学ぶ概論と実験をバランスよく配している。8科目ある「概論」(系統分類・進化学、分子細胞生物学、遺伝学、発生生物学、生化学、生態学、動物生理学、植物生理学)は、生物学のほぼ全領域をカバーしており、すべて必修だ。幅広く基礎知識を身につけて専門教育の土台とするとともに、2年次以降の専攻分野を考えさせることがねらいである。4年生の大場裕介さんは、「高校の生物の授業が面白く、もっと学びたいと思っ

8分野すべての概論を学び、
専門教育の土台を築く



生命環境学群
生物学類4年
大場裕介
おおば・ゆうすけ
宮城県仙台第一高校卒業。
植物の光合成に興味を持ち、生物学を志す。



生命環境学群
生物学類4年
木村郷子
きむら・さとこ
山形県立山形東高校卒業。
高校時代、「日本生物学オリンピック」に出場。

*プロフィールは2017年3月時点のものです

て生物学を選びましたが、概論で生物学の全体を見通してみると、『こんな分野もあるのか』という発見や驚きがありました。2年次以降で、植物生理学を深く学びたいという方向性も明確になりました」と語る。

「生物学は実験が出発点」と体験的に理解

一方、「基礎生物学実験」では、週1回、生物学の様々な実験を行う。毎回異なる教員が担当し、生物学の歴史をつくり上げてきた著名な実験の追実験をする。教科書ではたった一文で説明される現象を、数時間かけて立証することもあるという。4年生の木村郷子さんは、「高校の生物の授業では理論の学習が中心でしたが、この実験科目で、カエルの解剖や顕微鏡による微生物の観察などを行って、生物学の研究は観察や実験をしなければ始まらないことを実感しました」と振り返る。

学生は、実験で失敗したり、レポート作成に追われたりしながら、生物学を学ぶ醍醐味と難しさを感じ、2年次以降の専門的な学びへの心構えを持つ。木村さんは、「実験を繰り返すうちに、自分の手を動かして事

実を確認してこそ、確かな理解が得られることを実感するようになりました。また、教科書通りの結果が出ないことも多く、適切な手順で、器具を正確に操作する技術を磨く必要性も痛感しました」と話す。

2・3年次は選択科目の比重が高くなり、学生は自身の関心に応じて専門科目を履修していく。分野ごとに講義と実験の両方の科目が設けられているケースが多く、大学はセツトでの履修を推奨している。

「時間割は、午前は講義、午後は実験の科目が配されています。講義では十分に理解できなかった内容も、実際に実験してみても、ストンと理解できたことが何度もありました」（木村さん）

専門科目の授業を英語で受けて、視野が広がる

スーパーグローバル大学創成支援（*）の採択校である筑波大学では留学生が増えており、同学類ではそれに対応して独自に教育改革を進め、専門科目の約3分の1の授業を英語で行っている。

「最初は辞書を片手に必死に授業についていっていましたが、次第に

専門用語を押さえれば、英語による授業でも分かるという自信がつきました。英語への抵抗感もなくなり、海外の研究論文も積極的に参照するようになりました」（木村さん）

研究室によっては、留学生を交えて英語でコミュニケーションを図る姿も見られるという。

1年次からの学びを土台に自分の力で研究を進める

4年次になると研究室に所属し、未解明の最先端の研究に取り組む。木村さんは稲の病気、大場さんはシロイヌナズナの自己修復が研究テーマだ。1年次から試行錯誤してきた経験が支えとなり、自分の力で研究を進めていくことができ、その面白さを実感しているという。

「1年次から、数え切れないほど実験とレポート作成を繰り返してきたことが、自分で研究計画を立てたり、どのような実験が必要かを検討して、正確に実行したりする力の土台となっています」（大場さん）

仲間と研究内容を共有し、互いに刺激し合い、成果を追い求める。自身の関心をとことん追究し、研究に没頭できる環境がここにある。

大学の思い

自分で考え、行動する経験を汎用的能力につなげる



生命環境系 教授
佐藤 忍
さとう・しのぶ

研究者としての専門性に加えて、自分で考えて行動する力を育てたいと考え、カリキュラムを構築しています。例えば、1年次の実験では、思い通りの結果が得られないことがよくありますが、その原因や改善策を考えるうちに、仮説を立てる力や実験技術が向上します。そして、レポート作成では、実験を論理的に振り返り、正確に表現する力が磨かれます。2年次以降も、机上の学びで終わらせないために、実験の時間を十分に確保しています。講義と実験を一体化した学びは、理系におけるアクティブ・ラーニングと言えるでしょう。

専門科目の授業の多くを英語で行うことも、英語力だけにとどまらない成長に結びついています。語学の壁を取り払うことで、4年次での研究では海外の論文を参考にするなど、広い視野で取り組めますし、留学生との交流を通して得られる学びもあります。

失敗したり、仲間と協力したり、多様な価値観に触れたり、様々な経験が学びとなり、研究者、そして社会人として必要な力が育っていきます。

* 大学改革と国際化を断行し、国際通用性、ひいては国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備・支援を行う、文部科学省の事業。筑波大学は、世界大学ランキングトップ100を目指す大学を支援する「タイプA」の採択校。



1年次から、学校現場での実習で 教育の「今」を見て、感じて、学ぶ

岐阜^{しょうとく}聖徳学園大学 教育学部

いろいろな先生の授業を参観して、 指導上の技や工夫を学んでいます

教育実習までに、様々なタイプの先生の授業を参観します。発問の仕方、子どもに声をかけるタイミングなど、どれも勉強になります。(白井さん)



体験後は、気づきや学びを 必ず文章にまとめています

文章を書く過程で改めて気づくこともあります。気づきや学びはゼミのブログ(*)にアップしており、周りからの反応が励みになっています。(岩田さん)



2年次での指導案作りが 教育実習に役立ちました

2年次に指導案の作り方を学んだことで、3年次の教育実習では、自分なりの軸を持って授業ができました。(寺坂さん)



学校教育課程
社会専修3年
岩田有加

いわた・ゆか
愛知県立津島高校卒業。
中学校教員志望。



学校教育課程
国語専修3年
白井杏実

しらい・あみ
愛知県立江南高校卒業。
小学校教員志望。



学校教育課程
社会専修3年
寺坂友希

てらさか・ともき
愛知県立豊橋南高校卒業。
小学校教員志望。

1年生で体験 教員の仕事全般を

岐阜聖徳学園大学教育学部の「クリスタルプラン」では、教員としての実践的な指導力を育むため、4年間を通じて学校現場での実習を行っている。「教員は、就職1年目から授業を行い、担任を受け持つこともあります。大学1年生から小・中学校を訪れて授業を見て、子どもと触れ合いながら授業づくりや学級経営などについて学べたのは、大きな経験でした」と、寺坂友希さんは語る。

1年次に行われるのは、「学校ふれあい体験」だ。5・6・9月の各1日、同じ小学校の同じクラスに入り、授業を参観して、担任と同じように子

* ブログは右記参照。http://www10.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=2190001&frame=weblog

*プロフィールは2017年3月時点のものです

どもと一緒に休み時間を過ごし、給食を食べ、掃除をする。この体験で、自身が受けてきた授業とは異なる指導法があることを知る学生もいる。白井杏実さんもその1人だ。

「授業には様々なやり方があり、自分が受けてきた型にとらわれず、よりよい授業をつくっていくことが大切なのだと感じました」

放課後には、遊具のペンキ塗りやプール掃除といった校務も任せられる。授業だけではない、教員の仕事全般への理解を深めるためだ。

「子どもと1日中触れ合い、教員という仕事の内容を知って、教職に就くことを考え直す人もいました」と岩田有加さんが言うように、1年次での学校実習は進路を再確認する場にもなっている。

指導案と照らし合わせながら 授業を参観

2年次後期には、小・中学校計3校を訪れて「教育実践観察」が行われる。これは、提示された指導案で授業の目標や進め方を把握した上で授業を参観し、発問の仕方、子どもとのかかわり方など、授業づくりを学ぶ実習だ。3校目は研究校の発表

日に訪問し、学生は事後研究会にも参加する。ここで学んだことは、3年次の教育実習（小・中ともに各4週間）に生きたと、寺坂さんは語る。

「私は教えたいという気持ちが強くと、知識をたくさん詰め込む指導案を作っていました。実際の指導案と授業を見て、量よりも、1本筋が通った授業であることが大切なのだと分かりました。教育実習では、子どもが『もっと知りたい』と思えるような授業づくりを心がけたところ、授業が活発になり、大きな手応えを得られました」

1・2年次のどの実習も、事前に授業を見る観点や、子どもと触れ合う際の留意点などを学んで実習に臨む。実習後は、参加者全員で1日を振り返り、課題を話し合うとともに、学びや気づきをレポートにまとめて提出する。学生は、この「事前学習→実習→振り返り」のサイクルを実習ごとに繰り返す中で、教員としての知識・技能を身につけ、よりよい指導のあり方を考えていく。そして、教育実習には、寺坂さんのように、自分なりの指導観や明確な目標を持って臨むことができている学生も少なくないという。

教員や子ども、学校が 抱える課題も実感

3・4年次のゼミでの学びも実践的だ。元中学校校長という玉置崇教授のゼミでは、小・中学校の教員研修などにも積極的に参加する。白井さんは、教員が生徒役になる模擬授業に参加した際、「授業をよりよくするために、先生たちも学び続けているのだと感銘を受けました。私もそういう教員になりたいと思いました」と語る。

学部を選択科目には、小・中学校の授業や行事の支援などに学生を派遣する「学校インターンシップ」や、学生が企画・運営し、小学生に体験学習を提供する「フレンドシップ」などの活動もあり、4年間を通して現場が学びのフィールドとなる。

多くの学校を訪れることで、現場の課題を肌で感じ、目指す教員像が明確になったと、岩田さんは語る。

「2年次に訪れた学校では、授業観察を通して、学級経営の大切さを実感しました。子どもをしっかりと見つめ、子ども自身が成長できるきっかけを見いだせるような指導のできる教員になりたいと思います」

大学の思い

生きた現場の体験が 学生の指導観を育む



教育学部 教授
玉置 崇
たまおき・たかし

実際の授業や学級経営は、大学で学んだように進むものではありません。様々な学校を訪れ、先生や子どもとかわりながら学んでほしいと考え、1学年約330人に対し、岐阜市を中心に約250の小・中学校と連携し、1年次から学生全員が実習できる体制を整えました。私を含め小・中学校に勤めていた経験を授業で話す教員はいませんが、「百聞は一見にしかず」です。また、教員は自分が受けてきた授業を手本として授業をしがちです。早い段階から多様な授業を見ることで、意識の転換を図ってほしいという思いもあります。実習先に私たちも同行し、教室での学生の様子を見て、その場で声をかけています。学校現場を教材として、学生は学んでいるのです。

実習先の学校の状況は様々です。生徒指導が大変な学校もありますし、指導担当の先生と考えが合わないこともあります。ただ、実社会で働けば、そうした場面に出合うこともあります。地域の多様な学校と連携することで、1年次から様々な学校で経験が積めることも、本学ならではの思いです。

宮城県・仙台市立仙台工業高校の研究実践

資質・能力の育成に
つながる指導方法と
評価手法を開発

仙台市立仙台工業高校では、2013年から、「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」に取り組んできた。生徒の資質・能力を測るルーブリックの開発、指導方法と評価手法の構築・効率化まで、4年間の研究で大きな成果を上げ、生徒自身も自分の成長を実感できている。


の支援を受けて研究を継続している。研究を主導してきた西尾正人校長は、4年間の成果を次のように語る。


「工業高校では、安全管理や創造性など、科の特性に応じた工業人としての専門能力の育成に努めています。その内容は、教師としての経験に基づいた暗黙知によるところが大きく、どのように指導すれば生徒の資質・能力が伸びるのかという点で明確な答えは持っていませんでした。今回の研究を通して、工業人に必要な資質・能力は何か、それを伸ばすためにはどのような指導および評価方法が望ましいのかという道筋を見いだし、各科共通の指標を開発できたことは、大きな成果と捉えています」


研究では、管理職、分掌長、各科の代表者によるワーキンググループを設け、電気科の橋本正裕先生を中心に、まずルーブリックの素案を作成した。その過程は試行錯誤の連続だったと、橋本先生は振り返る。


「関連がありそうなセミナーに参加したり、大学の評価事例を参考にしたりしながら、『資質・能力』という言葉の意味自体を掘り下げていくところから始めました」

卒業生の多くが地域産業の担い手


仙台市立仙台工業高校 校長
西尾正人 にしお・まさひと
教職歴36年。同校に赴任して4年目。「創意を形にできる技術の修得と夢の実現につながる学校づくり」


仙台市立仙台工業高校
橋本正裕 はしもと・まさひろ
教職歴17年。同校に赴任して14年目。進路指導部。電気科。「夢に向けて努力を続ける生徒を育てたい」


仙台市立仙台工業高校
菊地雅彦 きくち・まさひこ
教職歴26年。同校に赴任して16年目。機械科長。「人や物事の結びつきを考えられる人を育てたい」


仙台市立仙台工業高校
三浦智 みうら・さとし
教職歴14年。同校に赴任して3年目。電気科長。「生徒の個性に合わせ、意欲と希望を育んでいきたい」

として活躍するため、同校に求人票を出す地元企業に、生徒に身につけてほしい資質・能力を調査するアンケートを行った。その上で、経済産業省の『社会人基礎力』の12の能力要素を参考に、8つの資質・能力評価項目を策定し、3段階の評価基準とそこに至るプロセス（規準）を入れたルーブリックを完成させた。

ルーブリックを活用した
パフォーマンス評価を実践

14年度は、ルーブリックを活用したパフォーマンス評価を、電気科1

「資質・能力」とは何かを
模索するところからスタート

「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の調査研究」は、2013～15年度、文部科学省「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究

事業」(*)の委託を受けた公益社団法人全国工業高等学校長協会が、全国11校の研究実践校と「専門科目」「実習・課題研究」「地域連携」の3分野で調査研究を行ったものだ。仙台市立仙台工業高校は、「実習・課題研究」分野での評価手法の開発に取り組み、文部科学省の事業終了後も、同協会

* 高校教育で生徒が身につけるべき幅広い資質・能力を多面的に評価する手法の研究を行い、その成果を普及していくことで高校教育の質保証に向けた取り組みを推進することを目的とした事業。2015年度には15団体の事業成果が公表された。

*プロフィールは2017年3月時点のものです

年次の「電気実習」で試行した。

評価規準を明確にしたことで、複数の教師が同じ観点で評価できただけでなく、生徒にもルーブリックを事前配布したことで、目標を達成するためにどうすればよいかを主体的に考える姿勢も見られた。しかし、取り組む内容が決められていることが多い授業でもあり、生徒が自ら考えて行動する要素が少なくなっていました。結果として、パフォーマンス評価を行う授業を十分検討しなくてはならないという反省も残った。

そこで、15年度は、電気科2年次の同じ「電気実習」の授業ではあるが、3年次を行う「テクノボランティア」(近隣団地で高齢者宅の電気工事を行う活動)の準備として、実際の電気工事を作業を行うという課題にグループで取り組むこととした。

前年度と同様に、生徒にルーブリックを配布し、自分の目標とするレベルを設定させた。続いて、事前検討会を行い、必要な工具や訪問時のマナーなどについて課題をまとめ、実践的な電気工事に取り組んだ。この間、教師は生徒の議論する姿や作業の様子を見ながらパフォーマンス評価を行い、生徒にフィードバックした。

評価の裏づけとなる行動事実を 生徒自身が記述

2年次では、課題解決型授業にしたことで、生徒の目標に対する意欲がより高まるなどの成果が得られる一方で、前年度には見られなかった教師による評価のぶれという新たな課題も出てきた。例えば、「主体性」では、教師が生徒のどの行動を重視

図1 ルーブリックとスマートフォンの評価画面

出前授業 目標の設定とパフォーマンス評価

科 番 氏 名

右のQRコードからアクセスし、下記の基準表で評価して入力してください。
A班はB班をパフォーマンス評価する。

必要とされる資質・能力とは

社会人として、職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力のことで(下表参照)。

アセスメントとは

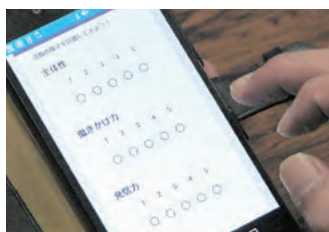
今回の活動の中で、「いつ、どんな状況で、どのような努力や工夫することにより発揮したか」という行動事実を記録し、以下の基準に照らして、アセスメントを実施していきます。

☆☆学習活動の評価基準です。自分の目標を定めて活動に臨んでください。☆☆

要素	目標	5					4				3			2		1									
		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1									
人間関係形成・社会形成能力	主体性 <small>物事に進んで取り組む力</small>	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	課題対応能力	課題発見力 <small>現状分析し目的や課題を明らかにする力</small>	計画力 <small>課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力</small>	創造力 <small>新しい発想を生み出す力</small>	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。					
	働きかけ力 <small>他人に働きかけようとする力</small>	周囲の人を動かして目標を達成する行動力をもっている。	他者に協力することの必要性を伝えることができる。	物言と協働して課題に取り組もうとしている。	課題に取り組もうとするが、他者との協働が十分できていない。	他者に頼らうとせず、課題に対する関心も不十分である。					自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。
	発信力 <small>自分の意見をわかりやすく伝える力</small>	相手の理解度を確認しながら、それにあわせて柔軟に意見を調整し、自分の意見や気持ちを相手に伝える。	具体的な例や根拠をあげながら、自分の意見を積極的に伝える。	自発的に相手に自分の意見を伝えることができる。しかし、具体性や論理性が不足している。	自分の意見は明確になっているが、他者に伝えることができていない。適切な言葉や態度が不足している。	自分の意見が明確になっていない。何を伝えたいのかわからない。					自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。
	傾聴力 <small>相手の意見を丁寧に聞く力</small>	適切に聞かずに、対話したりすることを通じて、相手から新しい気づきやアイデアを聞き出すことができる。	相手の意見に耳を傾け、その意見の背景がわからなくても、その背景にある価値観や心情も理解できる。	相手の意見に耳を傾け、相手の視点に立つことができる。	相手の意見に耳を傾け、自分の視点から解釈することができる。	相手の意見に耳を傾けようとしていない。					自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。
	柔軟性 <small>意見の違いや立場の違いを理解する力</small>	自分とは異なる価値観を持つ他者とともに、共有できる機会や目標を見つけ出し、協力しあうことができる。	自分の意見を主張するばかりではなく、相手の意見を尊重しながら説明できる。	自分と相手の意見の共通点や相違点を理解できる。	自己の主張にこだわり、相手の意見を聞き取らない。	初対面の相手に対して、自分から声をかけることができない。					自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。
課題対応能力	課題発見力 <small>現状分析し目的や課題を明らかにする力</small>	自分自身が重要視している課題にとどまらず、自発的に新しい視点や課題を見つけて、新たな課題や疑問点を探そうとする。	自分が気づき始めている課題のなかから、課題点や疑問点を抽出することができる。	いくつかの問題点や疑問点を課題として考えられ、そのなかから取り組むべきものを選び出すことができる。	課題に対して、いくつかのアイデアを出すことができない。他者からの指導の範囲を越えられない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。					
	計画力 <small>課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力</small>	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。	常に計画と進捗状況の違いに留意している。	作業に優先順位をつけて、実現性の高い計画を立てられる。	他から与えられた計画を柔軟的に消化する。	計画通りに進まないことを進めようとする。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。				
	創造力 <small>新しい発想を生み出す力</small>	複数のアイデアを統合したり、組み合わせたりすることによって、さらに創造的なアイデアを数多く生み出すことができる。	ひとつのアイデアをさらにふくらませたり、発展させたりすることができる。	自分の日常的な考え方や視点にとらわれて課題を後押し、自分らしいアイデアを生み出すことができる。	問題に対して、いくつかのアイデアを出すことができない。他者からの指導の範囲を越えられない。	問題に対して、いくつかのアイデアを出すことができない。他者からの指導の範囲を越えられない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。	自分の役割に責任を見出し、他者のため、グループのために貢献できる。	自分のできることや能力を活かせるような役割や課題を、自発的に探し出すことができる。	与えられた課題や、決められた役割の範囲の中で、自分のできることや能力を活かすことができる。	自分のできることや能力を自覚できている。	自分に対するのかを把握していない。				

パフォーマンスシート右上のQRコードをスマートフォンで読み取ると、評価の入力画面が表示される(写真右)。そこから評価を入力すると、リアルタイムでデータ分析ができる。

*学校提供資料をそのまま掲載



するかによって評価が異なっていた。電気科長の三浦智先生は次のように説明する。

「電気科だけでなく、ほかの3つの科でも活用できるようなルーブリックに汎用性を持たせる改訂をしたことが、同じ項目でも教師によって評価が異なる要因となりました。精緻な評価とするためには事前の目線合わせだけでなく、一つひとつの評

価項目についてより細かい指標を設ける必要があることが分かりました」

そこで、16年度は、評価手法を大幅に改訂し、振り返りと他者評価を重視した「プログレスシート」を開発して4年目の研究に臨んだ。これは、評価基準を5段階にするとともに、ICTを活用した評価ができるようQRコードをつけるなどの改訂を加えたルーブリック(図1)に、

図2 事前・中間・事後アセスメントシート

事前アセスメントシート

氏名	学科	記入日	平成	年	月	日
科目名	課題研究(4学科共通)	担当教員				
<p>「ものづくり」の楽しさを伝えようProject ～工業高校の魅力を発信する～ 教育用レゴ マインドストームを活用して、小学生にものづくりの楽しさを伝える。</p>						
<p>授業の目標</p>						
<p>このプロジェクトを希望した理由</p>						
<p>プロジェクトを通して向上させたい資質・能力</p>						
<p>プロジェクトを通して身につけたい専門知識、スキル</p>						
<p>プロジェクトで出したい成果のイメージ</p>						
<p>教員への連絡・相談</p>						
<p>自己分析</p> <p>主体的な学習態度・社会形成能力</p> <p>課題解決能力</p>	要素	事前レベル	アセスメントの根拠(具体的行動事実)			
	主体性	5・4・3・2・1	1つ以上ある程度「達成」して、そのよさを「発表」または「共有」することにより「理解」しようとしてきた事案(1つ以上の具体的な行動事実を記入する)			
	働きかけ力	5・4・3・2・1				
	発信力	5・4・3・2・1				
	継続力	5・4・3・2・1				
	柔軟性	5・4・3・2・1				
	課題発見力	5・4・3・2・1				
	計画力	5・4・3・2・1				
	創造力	5・4・3・2・1				
	教員からのアドバイス					

中間アセスメントシート

*図はすべて学校提供資料をそのまま掲載

氏名	学科	記入日	平成	年	月	日
科目名	課題研究(4学科共通)	担当教員				
<p>「ものづくり」の楽しさを伝えようProject ～工業高校の魅力を発信する～ 教育用レゴ マインドストームを活用して、小学生にものづくりの楽しさを伝える。</p>						
<p>自己分析</p> <p>主体的な学習態度・社会形成能力</p> <p>課題解決能力</p>	要素	中間レベル	アセスメントの根拠(具体的行動事実)			
	主体性	5・4・3・2・1	1つ以上ある程度「達成」して、そのよさを「発表」または「共有」することにより「理解」しようとしてきた事案(1つ以上の具体的な行動事実を記入する)			
	働きかけ力	5・4・3・2・1				
	発信力	5・4・3・2・1				
	継続力	5・4・3・2・1				
	柔軟性	5・4・3・2・1				
	課題発見力	5・4・3・2・1				
	計画力	5・4・3・2・1				
	創造力	5・4・3・2・1				
	教員からのアドバイス					

事後アセスメントシート

生徒は、自分の行動を客観視してルーブリックのレベル評価を行い、評価の根拠となる具体的な行動事実を記入する。教師はその評価に対してアドバイスと、次の活動で意識して行動してほしいことを記入して、生徒にフィードバックする。

事前・中間・事後の3種類のアセスメントシート(図2)をセットにしたものだ。このシートに、評価の根拠となる具体的な行動事実を、生徒自身に記入させるようにしている。機械科長の菊地雅彦先生は次のように説明する。

「当初は、教師が生徒の行動事実を見取り列挙しようとしたのですが、それでは限界がなくなると考え、逆に生徒が書いたものを参考にしよう」と発想を転換しました。生徒が見てほしいと思っている点を踏まえて評価できますし、生徒のメタ認知を養うことにもつながりました」

また、16年度には、電気科・機械科・建築科・土木科の全4科合同で、小学校での出前授業を企画・運営する「共通課題研究」でパフォーミングス評価を実施した。課題は、各科3人、計12人の生徒が2つの班に分かれ、近隣の小学校の5年生にレゴで作ったロボットにプログラミングを通して動かす授業を通して、ものづくりの楽しさを伝えようというものだ。

生徒は事前アセスメントシートで自己評価を行った後、班ごとに話し合っって指導案を作成し、2つの班の案を持ち寄って共通の指導案にまと

めた(写真1)。指導案ができたところで、「中間アセスメントシート」に班活動を通しての自己の変容を記入し、それを基に教師からアドバイスをもらった。そして、評価項目ごとに次の目標を設定し、出前授業当日に向けて班ごとにリハーサルを重ねた。

出前授業は、5年生5クラスを1クラスずつ、2班が交代しながら3日間指導した(写真2)。最初にA班が行った授業では、説明が多すぎて時間が足りなくなるということもあったが、指導案を修正した2日目以降の授業は順調に進み、ロボット相撲に興奮する児童の歓声が教室中に響き渡った(写真3)。



写真1 第2回企画会議では、班ごとにまとめた企画案を互いに発表し、実際に出前授業で行う内容を検討。各班の問題点や改善点を議論し、1つの指導案にまとめた。



写真2 出前授業で小学生に自己紹介をする緊張の面持ちの生徒たち。リハーサルを重ね、小学校の校長や先生から助言も受けていたが、時間が足りないというハプニングが発生。機転を利かせて乗り切ったのもよい体験となった。

写真3 高校生が指導した内容は、相撲ロボットのプログラミングなどで、要領をつかんだ児童たちは自ら改良を始め、相手を探して対戦しては歓声を上げていた。

ICTを活用して評価とデータ集計の効率化を図る

16年度の評価の結果を見ると、生徒と教師の評価はおおむね一致し、生徒が自分を客観的に見ていることが明らかになった。また、事前・中間・事後と回を重ねるごとに自己評価が高まり、学びが積み上げられていく様子も見られた。例えば、事前評価で「発信力」をレベル2とし、行動事実には「自分で言いたいことは分かっているが、うまく相手に伝わらない」と記入した生徒が、中間評価ではレベル3となり、「人前で意見を言えたが、少し弱い部分があった」と分析していた。

「研究で改めて感じたのは、生徒と教師が目標を共有することの大切さです。授業を通して得た気づきや課題を共有しながら振り返ることで、生徒は自分を客観的に見つめ直し、次の行動目標を立てて意識的に活動するようになります。生徒と教師のキャッチボールが具体的な行動の変容を促すと明確になったことは、大きな成果でした」（橋本先生）

なお、15年度までは、教師が用紙に書いた評価数値を改めてパソコンに入力して集計していたが、16年度は、同じ研究実践校の岡山県立倉敷工業高校の取り組みを参考に、タブレットとスマートフォンによるデータ入力システムを構築。それにより、

オンライン上で評価を入力すると、すぐに評価結果が集計されるだけでなく、グラフで表示されるなど、ICTが大きな役割を果たした。

生徒が客観的に自分を見つめることが自己肯定感の醸成につながると、西尾校長は語る。

「日々の学習での自身の成長を実感できる場面は、それほど多くありません。自分を客観的に見つめ、教師や仲間の評価を受けることで、『みんなが認めてくれる』『自分は意外にで

きる』という自信を深める契機になった生徒も多いと思います」

今後の課題は、生徒の変容を把握するために、継続的にルーブリックを用いた評価を実践する体制を築くことだ。

「この4年間の研究は、次期学習指導要領の答申の内容につながるものです。この成果を定着・発展させるとともに、通常授業や課外活動などにも広げていきたいと思っています」（西尾校長）

生徒の声

出前授業を振り返って

困った時は周りを頼ることも大切

A班リーダー 機械科3年 齋藤恭輔さん

私たちの班が最初に行った授業では、途中で時間が足りなくなり、その場で内容を減らして乗り切りました。小学生には、実際に手を動かした方が分かりやすいのだと感じ、その後の授業では説明を短くし、実際にやってもらうようにすると、授業がスムーズに進むようになりました。

出前授業での活動を通して、自分が特に成長を感じたのは発信力です。人に伝えることが苦手でしたが、リーダーとして小学生が分かりやすいように話さなければと意識したことで、伝える力がついたと思います。また、いろいろな場面でメンバーに助けられたことも、よい経験になりました。困った時は周りを頼ることも大切で、それが一つの目標を達成する力になることは大きな発見でした。

ルーブリックで自分の成長を実感

B班リーダー 電気科3年 石ヶ森俊太さん

最も難しかったのは、指導案の作成でした。小学生がプログラミングの知識をどの程度持っているのかわからず、授業の進め方を班でかなり話し合いました。B班は小学生が分かりやすいよう簡単な活動を提案しましたが、A班は限られた時間の中で充実した体験をさせたいという考えだったので、意見のすり合わせに特に苦労しました。今回の活動は「資質・能力の育成と評価がねらい」と先生から説明されていたので、私はすべての評価項目を上げよう意識して取り組みました。リーダーとしての責任感を持ち、特に主体性が大きく伸びたと感じています。ルーブリックがあることで、目標を高く持つことができ、また、事前事後の自分自身の変化も実感できました。

*プロフィールは2017年3月時点のものです

千葉県の高教教師が連携して「学び直し」を推進

県内全域での
「学び直し」の定着に向け、
学校間の情報交換を促進

現行学習指導要領に「義務教育段階での学習内容の確実な定着」が明記されたこともあり、いわゆる「学び直し」が全国的に進められている。そうした中、千葉県では、各校の学び直しの取り組みやその成果、課題などを共有する情報交換会が、高校教師有志の手で行われている。情報交換会の運営を担ってきた3校の校長に、学び直しを継続・発展させるためのポイントを聞いた。

次の3つが例示されている。

- ① 義務教育段階での学習内容の確実な定着に向けた学習機会を設ける。
- ② 必修教科・科目の単位数を増加させて、十分な習得を図る。
- ③ (義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした) 学校設定科目等を開設し、必修教科・科目の前に履修させる。

「答申」ではそれらを踏まえ、「学校設定教科・科目の設置を含めた対応が可能であるという、学習指導要領における位置付けをより明確にする」とともに、具体的な取組例について周知を図っていくことが求められる」としている。

千葉県「学び直し」の情報交換会

「学び直し」の充実を図る
教師有志のネットワーク

千葉県では毎年、公立高校の教師有志が集まり、自校の学び直しの取り組みをより充実させるために、各校の取り組み内容やその成果、課題などを共有する情報交換会(写真1)を行っている(ベネッセは、模試データや他校の成功事例情報の提供・分析者として参画)。情報交換会は、13年に4校が参加して始まり、徐々に



千葉県立市川工業高校 校長
藤平 秀幸 ふじひら・ひでゆき
教職歴38年。同校に赴任して3年目。



千葉県立浦安高校 校長
渡邊 啓之 わたなべ・ひろゆき
教職歴34年。同校に赴任して5年目。



千葉県立松尾高校 校長
木内 和夫 きうち・かずお
教職歴36年。同校に赴任して1年目。

規模を拡大。16年の第6回には、県内全域の15校から、管理職や進路担当、学年主任など、様々な分掌の29人が集まった。学び直しの導入を目指す高校からの参加も歓迎している。

情報交換会の運営を担ってきた千葉県立浦安高校(以下、浦安高校)の渡邊啓之校長は、学び直しの意義を次のように語る。

「基礎学力は、生徒の『生きる力』の根幹に位置づけられています。それをすべての生徒にしっかり定着させて大学や社会に送り出せるように、学び直しは重点的に取り組むべきことだと考えています」

生徒は基礎学力を身につけることで、高校の学習内容への理解を深められる。そうなれば、進路選択の幅

ますます求められる
「学び直し」の充実

中央教育審議会は次期学習指導要領の策定にあたり、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(以下、「答

申」)を、2016年12月に取りまとめた。「学び直し」は、「共通性の確保」と「多様性への対応」を踏まえた教育課程を編成する上で、その充実が求められている。周知のように、現行の学習指導要領においても、「義務教育段階での学習内容の確実な定着」に向けた学習機会の設置が明記され、



写真1 第6回情報交換会の様子。参加者1人ずつ自校の取り組みの内容や成果、課題などについて発表。また、ベネッセ社員による模試データの分析結果なども共有され、学習意欲と進路意識との相関などが示された。

を広げることもつながる。渡邊校長とともに、情報交換会の運営に携わってきた同県立市川工業高校（以下、市川工業高校）の藤平秀幸校長は、次のように述べる。

「近年は、推薦・AO入試に学力試験を課す大学や、就職試験に学力試験を課す企業が増える傾向にあります。多くの選択肢から自分の進みたい道を選べるようにするためには、専門高校でも普通教科・科目の学力向上が必要です。その基盤として、本校では学び直しを重視しています」

17年度から情報交換会の幹事校となる同県立松尾高校（以下、松尾高校）の木内和夫校長は、学び直しを推進する必要性を次のように話す。

「多くの高校が、中学校までの学習内容が十分には定着していない生徒を迎え入れています。生徒の基礎学力の不足を実感し、『何とかしなければ』と思う先生も少なくありません。学び直しの普及・充実は、高校教育にとつて切実な課題となっています」

ただ、学び直しの必要性を感じながらも、導入や推進が思うように進んでいない学校も珍しくない。その要因として、情報交換会の参加者からは、校内の合意形成の難しさが共通して挙がっていた。前述の3校は、校内の合意形成をいかに図り、学び直しを推進していったのか。取り組みの具体的な内容とともに見ていく。

千葉県立市川工業高校

まずは可能なところから改革の第一歩を踏み出す

市川工業高校では、毎日10分間の朝学習の時間を設け、国語・数学・英語でベネッセの「マナトレ」(*1)に取り組みさせている(図1)。

「普通教科・科目の基礎学力は、専門教科・科目の学びを深める上でも必要です。全生徒にしっかりと身につけさせたいと考えました」(藤平校長) 学び直しを始めるにあたっては、

「時間の確保が難しい」と言う教師が多かった。そこで、藤平校長が「まずは一步を踏み出そう」と呼びかけ、暫定的に朝のホームルームの時間に導入。毎日ではなく週3日だったが、取り組みを始めて間もなく、落ち着いて授業に臨む生徒が増えていった。

「生徒は学び直しによって『やれどできる』と自信を持ち、学習に向きになったようです。それとともに生活態度も徐々に改善されました。また、生徒の変化を目的の当たりにした先生方の中にも、学び直しに次第に前向きになっていった先生がいました。それが、朝学習の時間の設置

につながったのです」(藤平校長)

藤平校長は、教職員との個人面談を行い、学び直しの重要性を伝える。「基礎学力の定着により、生徒は進路の可能性をさらに大きく広げられます。そうなれば、工業高校の認知度向上にも影響してくるものと考えられます」(藤平校長)

また、生徒の学力をこまめに測る体制を整えるため、ベネッセの「基礎力診断テスト」(*2)の成績分析会を、学年ごとに行っている。そして、GTZ(*3)が大きく伸びた生徒は、学年集会での表彰を予定している。学び直しの成果は、生徒の生活・

図1 千葉県立市川工業高校の取り組み概要

背景

- 基礎学力の不足から、希望進路が実現できない生徒が目立った
- 遅刻が多く、一部生徒の生活態度に課題があった

内容

- 国語・数学・英語の「マナトレ」を導入し、全学年で学び直しを始めた。まず、朝のホームルームの時間に週3日実施し、取り組みに対する教師の理解を深めた。次いで、朝学習の時間をつくり、学び直しを毎日行うことにした
- 藤平校長が教職員全員との個人面談を行い、学び直しに対する意識づけを重ねた
- 「基礎力診断テスト」の成績を各学年団で分析

成果

- 生徒の学習意欲が高まり、成績も向上
- 授業を落ち着いて聞く生徒が増え、遅刻も減少

千葉県立市川工業高校

◎設立：1943（昭和18）年 ◎形態：全日制・定時制/機械科・電気科・建築科・インテリア科/共学

◎生徒数：1学年約240人 ◎2016年度進路実績（現役のみ）：4年制大進学28人、短大・訓練校、専門学校進学42人、就職128人

◎URL：<http://cms1.chiba-c.ed.jp/ichiko/>

*1 ベネッセの教材の1つ。学習力を身につける、小・中学校範囲の学び直し専用のプリント教材。 *2 GTZ（学習到達ゾーン）という指標で生徒一人ひとりの基礎学力の定着度と学習力、コミュニケーション特性（自我同一性）を測る、ベネッセの生活・学習指導用テスト。 *3 学習到達ゾーンのこと。ベネッセのテストにおける共通の学力評価指標。「S1」～「D3」の15段階があり、基礎力診断テストでは、そのうち「A2」～「D3」で評価される。

学力の両面に表れている。生徒の遅刻数は減少し、基礎力診断テストでは、1回目から2回目にかけて各教科それぞれ学年の3分の1以上の生徒が、前回よりも成績を伸ばした。年末度には、希望制の実力テストを実施し、年間のまとめを行った。

「生徒の頑張りによってすぐに反応し、個別指導などに取り組み先生が、若手を中心に出てきています。そうした意欲的な先生に学年主任を任せるなどしたことで、学び直しという新しい文化が本校に定着しつつあるのだと思います」（藤平校長）

千葉県立浦安高校

学校が一丸となって改革を進める組織づくり

浦安高校は、生徒の学力向上を主軸に据え、学校改革を推進している（図2）。習熟度別授業やチーム・ティーチングによる指導などのほか、成績下位層の生徒に対して、定期考査前の放課後や夏季休業期間などに補習も行う。さらに、15年度の1年生からは生徒が任意で参加する朝自習の時間をつくり、国語の学び直しの場とした。ただ、同校は部活動が盛んなため、課外で学習指導を行う

ことに消極的な教師もいた。そこで渡邊校長は、校外からの声によって教師の共通理解を深めようと考え、15年度には「コミュニティ・スクール」の指定を受けた。保護者や地域住民を交えて構成される学校運営協議会からの評価を、学校改革の原動力にしようというわけだ。さらに、学校改革の方向性を具体的に検討するために、生徒指導委員会や学力向上委員会など、6つの委員会を学校運営協議会に設置し、全教師がいずれか1つの委員会に所属することにした。「学校運営協議会からの評価には、本校の課題が客観的に示されます。

それと向き合うことで、先生方に学習指導を充実させる必要性を実感してほしいという思いがありました。また、学校運営協議会内の委員会に全教師が所属することで、先生方一人ひとりの学校改革への意識が高まると考えました」（渡邊校長）

そうした取り組みの結果、校内の合意形成は大きく進み、新たな活動も生まれた。例えば、16年度には基礎力診断テストを導入。テスト結果を分析して生徒一人ひとりの課題を洗い出し、それを習熟度別の指導などに生かすことを目指している。さらに、18年度からは朝自習を教

図2 千葉県立浦安高校の取り組み概要

背景

- 義務教育段階での学習内容が定着していない生徒が少なくなかった

内容

- 生徒の学力向上を目指した学校改革に着手。その一環として、朝自習の時間で国語の学び直しを開始
- 校外からの声によって教師の共通理解を深めようと、「コミュニティ・スクール」の指定を受ける。学校運営協議会に6つの委員会をつくり、どの教師もいずれか1つの委員会に所属することにした

成果

- 生徒の国語の成績が向上
- 教師が一丸となって学校改革に取り組む体制が整った

千葉県立浦安高校

- ◎設立：1973（昭和48）年
- ◎形態：全日制／普通科／共学
- ◎生徒数：1学年約240人
- ◎2016年度進路実績（現役のみ）：4年制大進学56人、短大、専門学校進学130人、就職36人
- ◎URL：<http://cms1.chiba-c.ed.jp/urayasu-h/>

千葉県立松尾高校

取り組みを発展させるために校長が率先垂範

育課程に組み込み、参加を必須とする予定だ。その背景には、現在先行して実施している国語の朝自習により、学年の半分以上の生徒が基礎力診断テストで国語の成績を伸ばしたという成果がある。

渡邊校長は、同校の学校改革における自身の役割を次のように話す。「生徒の課題に応じて教育活動を絶えず変えていくためには、先生方全員が当事者意識を持って取り組み組織をつくらなければなりません。それは、学校運営の責任者である管理職の務めだと私は考えています」

松尾高校は、学び直しの先進校だ（図3）。例えば、国語・英語では授業の冒頭10分間をマナトレへの取り組みに充て、定期考査ではマナトレから数問を出題。数学でも、家庭学習の課題としてマナトレに取り組みさせている。さらに、学び直しに特化した部活動「勉強部」も設けている。活動内容は国語・地理歴史・公民・数学・英語の各教科・科目の学習で、生徒が放課後に問題演習に取り組み、

図3 千葉県立松尾高校の取り組み概要

背景

- 大学・専門学校進学後の退学者や、学力不足で希望進路を実現できない生徒が少なくなかった

内容

- 学び直しのために、国語・数学・英語で「マナトレ」を全学年に導入。国語・英語は授業の冒頭10分間で取り組ませ、数学は家庭学習の課題として活用
- 学び直しのための部活動「勉強部」を設置。生徒が国語・地理歴史・公民・数学・英語の問題演習に取り組むほか、各教科担当が解説も行う

成果

- 基礎学力が向上する生徒が増え、「実力診断テスト」のGTZでDゾーンが減少
- 学力とともに進路意識を高める生徒が増え、センター試験受験者数が激増

千葉県立松尾高校

◎設立：1909（明治42）年 ◎形態：全日制／普通科／共学（2年生から文系コース、理系コース、生活コース、ビジネスコース、福祉コースの5コースに分かれる） ◎生徒数：1学年約160人 ◎2016年度進路実績（現役のみ）：4年制大進学45人、短大、専門学校進学73人、就職39人 ◎URL：<http://www.chiba-c.ed.jp/matsuo-h/>

各教科担当が解説を行う。

学び直しの成果は著しい。ベネッセの「実力診断テスト」（*4）のGTZがDゾーンの生徒は、この1年間で3分の1に減少。生徒の進路意識も高まり、センター試験の受験者数は、13年度9人↓14年度20人↓15年度45人と、3年間で5倍となった。

また、木内校長は、課題だった学校全体で学び直しを行う体制づくりに向け、16年度に学校運営のグランドデザインを策定。学び直しを「『生きる力』の育成」の一環と位置づけた。「どの先生にも学び直しの取り組みに意欲的になってほしいと考え、学

校として学び直しを推進すると宣言しました。先生方が力を合わせてこそ、取り組みは実を結び、発展していきます」（木内校長）

さらに、15年度に指定されたSGHの取り組みでは、言語活動の充実を重視。短歌や俳句を生徒から募り、優秀者を表彰するといったアイデアを、木内校長が率先して出している。

「SGHの取り組みを通じて育成を目指すグローバル人材に求められる資質・能力の1つとして、コミュニケーション能力が挙げられます。特に、言葉の運用能力は生徒の『生きる力』の土台になるものであり、学

び直しにも密接にかかわります。つまり、SGHと学び直しは相反する取り組みではなく、一体のものであります。どちらも引き続き、全校体制で取り組んでいきたいと考えています」

言語活動の充実による成果は、早くも表れている。例えば、実力診断テストの国語においては、わずか1年間にGTZのBゾーンの生徒が10%から50%へと激増した。

「本校の学校改革にはよい流れができています。それを次世代に引き継ぎ、さらに充実させるためには、若手の先生の育成が鍵になると考えています」（木内校長）

情報交換会の今後

永続的な運営を目指し組織化を推進

取り組みの継承・発展は、情報交換会でも重要な課題となる。そこで、

運営の組織化を図るために、「Brushup Learning推進連絡協議会」を17年度に設立する。木内校長が会長、渡邊校長、藤平校長が顧問となり、学び直しを推進する各校の管理職を副会長や理事に、現場の教師を事務局に迎える予定だ。

「情報交換会は、学び直しの普及に

貢献できる活動です。教師の異動や退職にかかわらず、取り組みを継続するための組織をつくる必要性を感じました。17年度の事務局には、若

手を含めた本校の教師3人を充てますが、今後は他校の先生にもお願いしたいと思っています」（木内校長）

新たに動き始めた情報交換会に、藤平校長は次のように期待を寄せる。

「組織化によって運営側の意思疎通がより円滑になることで、課題の発見・改善につながると思います」

17年度からは、年2回の情報交換会の実施を目指している。

「定期的に行うことで、会の存在の認知も広めていきたいと思っています。さらに多くの先生方の参加を期待しています」（渡邊校長）

木内校長は、情報交換会の今後について次のように話す。

「学び直しは、生徒のための取り組みであるのと同時に、教師の指導改善のきっかけになるものだと考えています。学び直しに意欲的な先生方の力になれるよう、情報交換会の規模を拡大し、安定して運営していくことが重要です。そこで、いずれは千葉県や教育委員会といった公の組織と連携できればと考えています」

*4 ベネッセの模試「進路マップ」の1つで、教科書レベルを中心に基礎学力を測るテスト。

2017年2月号・特集へのご意見

協働のあり方の大原則を見いだせた

中高連携の必要性を痛感していたため、大変参考になった。互いの指導内容に踏み込んだ取り組みのあり方や、互いを認め合い、よい点を伝えた上で一緒に考えるというあり方に、協働のあり方の大原則を垣間見た気がした。

山形県 匿名希望

中学校での学習スタイルを発展させる授業

これまで「中学生を高校生にする」という声かけの下で初期指導を行ってきた。学習の量や質の変化に伴い、学習スタイルを変えるよう指導してきたが、中学校でのグループ学習などで身につけてきた主体的に深く学んでいく方法を知らず知らずのうちに否定していたような

気がする。入学前に身につけてきた学習スタイルを発展させる授業を考えていかなければならないと改めて思った。

広島県・広島市立沼田高校 正木勝治

互いを認め合うことから始めたい

中学校と高校の相互理解はなかなか難しいと感じている。併設型の中高一貫校に勤務しており、中学校で教える機会もあるため、中学校での学びも理解できるようになったが、中高一貫校でなければ中学校での学びを目にする機会は少ない。中学校と高校の相互理解を図る取り組みとして、「松江市内三校教科・進路指導協議会」の事例は大変刺激を受けた。中学校と高校では異なる文化を持つが、まずは互いを認め合うことから始めることが大切だと思った。

和歌山県 匿名希望

教育ちょこっとトーク

テーマ 新年度の この時期の指導で してしまいがちな 失敗



・教師側が1年間継続してできないことを無理してやってしまうこと。例えば、毎週クラス通信を出すと言っておきながら、続かなかったことがある。宣言したことが続かないと、教師への不信感につながってしまう。大阪府
・あれもこれもと詰め込みすぎること。生徒が「消化不良」を起こしてしまい、その状態があたり前という感覚になってしまうこと。滋賀県

・生徒に対して先入観や一方的な決めつけで見えてしまい、高校に入って変わろうとしている生徒の芽を摘み取ることがある。「君にはできない」「無理だよ」は禁句にしている。北海道
・性急に結果を求めすぎること。じっくりと先を見て計画すればよい。着実に基礎を固めるのが一番である。青森県

自分を変えた言葉を募集しています！

「教師を育てた言葉たち」(巻末)のコーナーでは、取材にご協力いただける先生を募集しています。「あの一言で指導観が変わった」「自分を成長させてくれた」という言葉と、それにまつわるエピソードをお待ちしています。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、
必要事項①～④をご記入の上、
下記のe-mailアドレスにご送信ください

- ① 学校名・お名前
- ② 分掌・ご教職歴
- ③ 紹介したい言葉
- ④ エピソード(どんな時に言われた or 出合った言葉か、それによって自分がどう変わったのかなど)

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「教師を育てた言葉たち」の言葉募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時～21時)にて承ります。
(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者)
上記をご承諾くださる方はご送信ください。

編集後記

新装刊の『VIEW21』高校版はいかがでしたでしょうか。編集後記もリニューアルいたします。ここでは、記事でお伝えするのはまた違う取材のリアルを、オフショット写真などを通して編集者が伝えて参ります。1回目の今回は、表紙の取材です。撮影の合間に何となく始まった生徒たちとインタビューとの立ち話。その様子を大目木先生は後ろで座って見ていました。それを気にすることもなく、生徒たちは笑顔で先生について語り続けます。その内容に時折涙しそうになりながら、優しく見守る大目木先生。信頼関係が築けているからこそ、この空気、この表情なんだと強く感じた一場面でした。(柏木)



VIEW21 高校版 2017 6 月号

次号は 6月23日発行(予定)
『VIEW21』高校版は年6回の発行です

教師を育てた 言葉たち

No. 001

静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎先生

ごとう・まつたろう

◎教職歴 17 年。同校に赴任して 18 年目。
進学指導課長。地理歴史・公民科。

静岡県・私立沼津中央高校 全日制／普通科／共学／1 学年約 240 人／2016 年度入試合格実績（現役のみ）：4 年制大は、獨協大、國學院大、法政大などに延べ 51 人が合格。



幼 い頃から、刑事に憧れていた私は、20 代の頃は正義感あふれる熱血教師で、生徒に何か気になることがあれば、些細なことでもすぐに注意をしていました。問題が起きる前に注意するのが教師の役目であり、教師が厳しいほど生徒は真っすぐに育つと信じていました。

しかし現実には、私が注意するほど背を向ける生徒もいました。刑事ドラマでは「カツ丼でも食うか？」と語りかけ、相手の心の中にずっと入っていくシーンがよく描かれます。でも、当時の私は、すぐに「こら！」と大きな声でとがめていました。それに対して反発する生徒も当然いて、收拾がつかなくなり、周りの先生に取りなしてもらったこともあります。

高校時代は、いわゆる手のかからない生徒で、特に先生に怒られた経験がなかった私は、生徒をどう指導すればよいか分かっていなかったのでしょう。だから、先輩の先生方に助けてもらおうと、必要以上に大きな声を出していたのかもしれません。

教 師になって 4 年目、大ベテランの先輩先生から、「後藤くん、ちょっと」と声をかけられました。先輩は私に、「最近どう？」とお茶を差し出して、雑談が始まりました。取り留めのない話をしてはいたはずですが、いつの間にか生徒への接し方が話題になり、先輩から「ピンポイントで解決しようとしてもダメ」という言葉をかけられました。いろいろな話をする中で、生徒は徐々に心の中を見せてくれる。何気ない会話の中での生徒のシグナルを見逃してはいけないと先輩は話してくれました。

「このままの指導スタイルではいけない」と内心思っていた私は、先輩の言葉を受け入れることができました。しかし、理解はできても、すぐに自分を変えることはできませんでした。そんな私に、その後も先輩は「最近どう？」と時々言葉をかけてくれ、話を聞いてくれました。先輩と話す中で、私は心がほぐれていくのを感じると同時に、「耳を傾ける」ことの大切さを学びました。

自分の変化を実感するようになったのは、それから 3 年ほど経ってからです。指導が必要な生徒に、いきなり問題の原因を聞くのではなく、生徒がうまく表現できない思いに耳を傾け、折り合いのつかないモヤモヤを抱えていることが分かった時は、「大変な中で一生懸命頑張っているんだね」と言葉をかけられるようになりました。そして、生徒が前向きに挑戦している時、小さくても成果を出した時などは、さらに背中を押すように逆にピンポイントで褒めるようになりました。教育という営みを、私が少し俯瞰できるようになったからだと思います。

今 私たちが向き合っている生徒たちは、先を見通すことが難しい社会を生きていかなければなりません。だからこそ、生徒には学び続ける力が必要であり、私たち教師には、生徒との日々の対話の中から生徒自身も気づいていない可能性を引き出し、生徒にチャレンジを提案する力が求められていると思います。教師にとって「生徒」は、答えが 1 つではない問いです。問いに向き合うために、私たちも学び続けなければならないと思っています。

英語4技能を多角的に測定する新・英語検定

GTEC CBT

Global Test of English Communication Computer Based Testing

SPEAKING

WRITING

LISTENING

READING

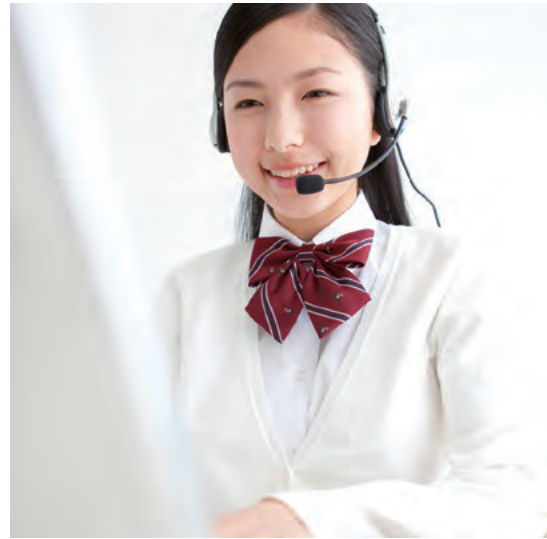
- 1

特長 1 GTEC CBT のスコアは大学入試に活用できます。
- 2

特長 2 「留学の成果測定」や「英語力の育成」にもご活用いただけます。
- 3

特長 3 高校生に最適な出題。
- 4

特長 4 全国47都道府県の公開会場で受験可能です。



2017年度 検定日	2017年 7月16日 日	2017年 11月12日 日	2018年 3月25日 日
申込期間	2017年4月18日(火)～6月14日(水)	2017年8月25日(金)～10月10日(火)	2018年1月6日(土)～2月22日(木)
検定料	9,720円(消費税8%込み)		

※年度内2回まで受験可能

2018年度以降入試活用予定大学は144大学

スコアが活用できる大学やその他の情報は公式Webサイトをご覧ください。

詳しくはGTEC CBT
公式ホームページをご覧ください。

<http://benesse-gtec.com/cbt/>

GTEC CBT

検索

VIEW21

ビュー21 高校版 Volume1 2017年4月号
 2017年4月10日発行 / 通巻第363号 発行人 山崎昌樹 編集人 春名啓紀 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 VIEW21編集部 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階
 ©Benesse Corporation 2017

お客様
サービスセンター

[フリーダイヤル] **0120-350455**

受付時間 月～金 8:00～19:00 / 土 8:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)
 株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17